



静岡県富士山世界遺産センター
年報 2024.4－2025.3

● 目 次 ●

館長挨拶	1
------------	---

1 概 要

1-1 沿革	2
1-2 写真で見る2024.4-2025.3	4

2 活動状況

2-1 永く守る	
2-1-1 静岡県認定富士山世界遺産ガイド養成	8
2-1-2 サポートボランティア制度	10
2-1-3 富士山保全協力金	11
2-1-4 富士山安全対策	12
2-2 楽しく伝える	
2-2-1 常設展示リニューアル	13
2-2-2 企画展	15
2-2-3 アトリウム展示活動	23
2-2-4 教育旅行受入	24
2-2-5 出前講座	26
2-2-6 館内講座	29
2-2-7 世界遺産セミナー	31
2-2-8 富士山世界遺産コラム	32
2-2-9 ホームページ・SNS・YouTubeによる情報発信	33
2-2-10 メール会員	34
2-3 広く交わる	
2-3-1 地域貢献・広域連携（富士山ネットワーク推進委員会）	35
2-3-2 視察受入	36
2-4 深く究める	
2-4-1 巡礼路調査	37
2-4-2 研究活動	39
2-4-3 富士山学	49
2-4-4 資料収集	50

3 施設・組織・予算

3-1 施設	56
3-2 組織	58
3-3 予算	59

4 資 料

4-1 来館者数データ	60
4-2 2024年度の休館日	60
4-3 公式オリジナルグッズ	61
4-4 報道実績	63
4-5 来館者アンケート結果	65
4-6 条例・規則	72

館長挨拶

ご挨拶

令和7年1月から静岡県富士山世界遺産センターの館長に就任いたしました。

このセンターは、芸術の源泉・信仰の対象という富士山について深く研究し、富士山の魅力を国内外に伝え、その文化的価値を永く守り続けていくための施設として、平成29年12月に開館いたしました。開館から7年間、遠山前館長が守り活動してきたその遺産と想いを受け継ぎ、世界の宝である富士山の価値を守り、後世に伝えていきたいと思っております。

私は、長く世界遺産の仕事に携わっており、各国の世界遺産センターを訪れたりしていますが、世界各国の世界遺産センターと比較しても、富士山世界遺産センターは素晴らしい施設です。

どうぞ、静岡県富士山世界遺産センターにお越しいただき、富士山について学び、様々な事を感じていただければと思います。

これからもよろしくお願いいたします。

令和7年9月

静岡県富士山世界遺産センター

館長 稲葉 信子



1

概要

1-1 沿革

2011年10月	基本構想策定委員会を設置
2012年 3 月	基本構想を策定
2012年11月	基本計画策定アドバイザーを設置
2013年 3 月	基本計画を策定
2013年 6 月	世界文化遺産登録決定
2013年 8 月	建設地を富士宮市宮町に決定
2014年 3 月	設計者を株式会社坂茂設計事務所へ決定 展示基本計画を策定
2015年 3 月	実施設計完了
2016年 3 月	建築工事着手
2017年 2 月	2017年12月23日開館を公表
2017年 7 月	建築工事完成
2017年10月	設置管理条例議決 展示工事完成
2017年12月	12月22日開館記念式典開催 12月23日開館
2018年 2 月	入館者10万人達成
2018年 3 月	シアター新番組「地の巻」上映開始
2018年 7 月	入館者30万人達成
2018年12月	入館者50万人達成
2019年 1 月	3階「育む山」展示リニューアル
2019年 3 月	シアター新番組「宙の巻」上映開始
2019年 8 月	富士山世界遺産センターふじっぴー誕生
2019年11月	三笠宮彬子女王殿下 地方事情御視察のため御来館
2020年 3 月	富士山世界遺産センター公式ハンドブック発行
2020年 4 月	新型コロナウイルス感染症拡大のため臨時休館 (4月14日から5月31日まで)
2021年 2 月	2月20日観覧料支払いへのキャッシュレス決済導入 2月28日来館者100万人達成
2021年11月	研究・収蔵スペースの増築工事完成
2022年 4 月	ミュージアムショップ・カフェリニューアル
2022年 9 月	高円宮妃久子殿下御来館
2022年12月	12月13日開館5周年記念式典・コンサート開催 12月23日開館5周年
2023年 7 月	7月1～3日富士山世界遺産登録10周年記念国際シンポジウム
2024年12月	12月3日来館者150万人達成

● 基本コンセプト及び機能

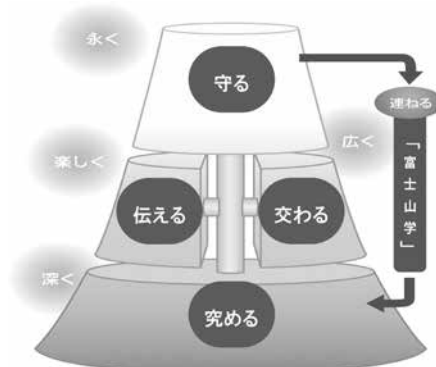
静岡県富士山世界遺産センターは、世界遺産条約第5条（e）の趣旨に則り、富士山が持つ顕著な普遍的価値を次世代に継承し、「永く守る」拠点施設として整備された。

富士山を「永く守る」ためには、資産を適切に保護・管理するとともに、多くの人々が世界文化遺産としての富士山の価値について理解を深めることが必要となる。

そのため、富士山を「永く守る」活動に加え、富士山の価値を「楽しく伝える」活動やセンターの活動を通じて人々が「広く交わる」機会を創出する活動を展開する。さらに、これら「永く守る」「楽しく伝える」「広く交わる」の活動内容を奥深いものとするため、富士山の自然や歴史、文化等を「深く究める」活動を展開する。

また、他の研究機関等と連携した「深く究める」活動の成果及びセンターの諸活動を「連ねる」ことで、「富士山学」を体系化し、世界文化遺産「富士山」の価値を探究する活動を継続して実施する。

〈基本コンセプト及び機能概念図〉



1-2 写真で見る2024.4-2025.3

来館者150万人達成記念セミナー

日程：2024年12月3日



富士宮市民文化会館アウトリーチ事業 「美守（びまもり）の都ふじのみや」

富士山世界遺産センターコンサート

日程：2024年12月18日



企画展

富士山の「合目（ごうめ）」のハナシ

会期：2024年4月27日～6月9日



企画展

富士山信仰の拠点となる湧水
—湧玉池が育む豊かな生態系—

会期：2024年7月13日～9月8日



特別展

シリーズ江戸文化のなかの富士山Ⅶ

転回点 幕末から明治へ

—移動する徳川家茂、和宮、明治天皇、
そして彼らのみた富士山—

会期：2024年9月28日～11月4日



令和6年度特別展開催記念 スペシャルトーク

転回点 幕末から明治へ

—移動する徳川家茂、和宮、明治天皇、そして彼らのみた富士山—

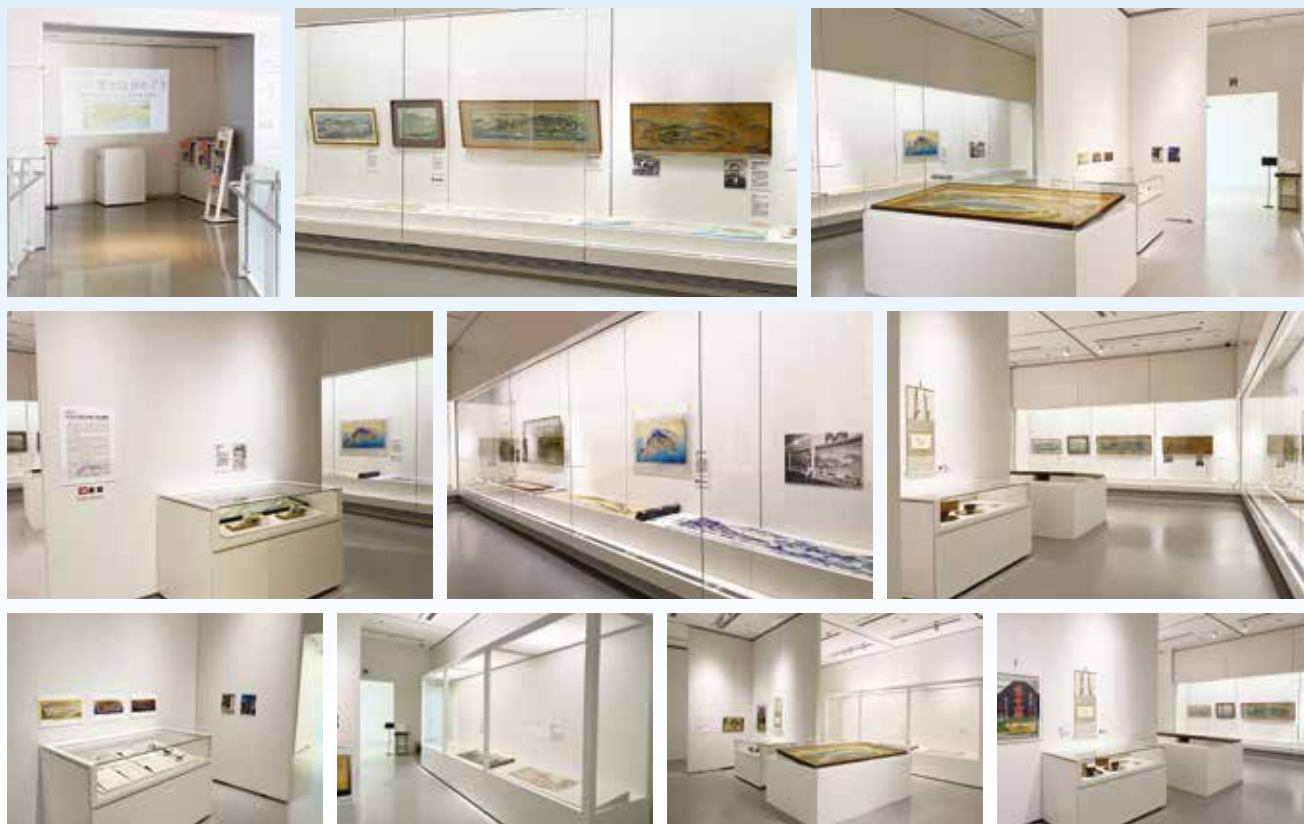
日程：2024年10月6日



企画展

ぐるり富士山旅めぐり ―肉筆鳥瞰図にみる富士山周辺の観光開発―

会期：2024年12月7日～2025年1月26日



企画展

第5回 絶景・秀景

富士山世界遺産写真コンテスト入賞作品展

会期：2025年2月22日～3月23日



2 活動状況

2-1 永く守る

2-1-1 静岡県登録富士山世界遺産ガイド養成

1 概要

静岡県登録富士山世界遺産ガイドは、世界遺産「富士山」の顕著な普遍的価値及びその適切な保存管理について理解を深め、案内することができることを目的とし、2012年度に発足した。これまでに養成講座を9回実施し、282名が修了した。登録更新希望者を対象に2年毎に更新講座を実施し、その際の意向確認でこれまでに142名が登録を辞退・抹消（逝去含む）となり、2024年度末の登録者は140名である。

2 活動内容

- ・各構成資産における来訪者へのガイド
- ・教育機関、旅行業者等の依頼に基づいた添乗ガイド
- ・富士山をテーマとする各種講座等における講師
- ・富士山の価値や適切な保存管理の普及のための活動

3 更新講座

世界遺産ガイドとしての技量やモチベーションの維持・向上を目的として更新講座を実施している。例年、年度始めに実施計画日の中から対象者に希望調査を行い、年3～5回の更新講座を実施している。2024年度は、平成24・26年度登録者と、2023年度に受講予定であった平成25・27年度登録者を対象に、10月から11月にかけて5回講座を実施した。ガイドとしての技量を高める機会とするため、構成資産でガイドをしている方や、構成資産がある自治体の職員からガイドを受ける内容を中心に実施したが、構成資産の最新の状況を知ることができ、ガイドするうえでのポイントも学ぶことができると参加者からは好評であった。

実施日	参加者数	会 場
10/24	10名	富士（須走）浅間神社と周辺の町並み
10/27	12名	
11/ 7	9 名	みほしるべ・三保松原周辺
11/ 9	8 名	
11/16	6 名	静岡県富士山世界遺産センター (座学「山梨県側の富士山の現状」)
2024年度更新者：45名		

4 養成講座

新たな富士山世界遺産ガイドを養成するため、2023年度に養成講座を再開した。2024年度は、10月5日、19日、26日の3日間で実施し、2023年度に未履修講座があった2名を加えて20名が修了した。（4名は未履修講座があったため、2025年度に単位履修生となる予定。）



(更新講座の様子)



(養成講座の様子)

● 2-1-2 サポートボランティア制度

1 概 要

地域の人々が静岡県富士山世界遺産センターの日々の活動を支え、来館者とセンター、地域とセンターを結ぶ架け橋として活動する組織として、サポートボランティア制度を設けた。

2024年度は76名がサポートボランティアとして登録している。年齢層は高校生から80代までの幅広く、一般来館者誘導と館内イベントの補助を主に担当した。また、養成研修を修了した「館内登拝ガイド」認定者が、一般来館者（1～5名）に、らせんスロープの映像や展望ホールを20分程度で案内する取り組みを実施した。

〈サポートボランティアの概要〉

区 分	内 容	
対 象	高校生以上	
任 期	1年（令和6年4月1日～令和7年3月31日）毎年更新の意思を確認	
登録人数	76人	
業務内容 （通常）	来館者対応	一般来館者誘導（スロープ、シアター誘導等）、 館内ガイド（※要研修の受講）
	館内業務	館内イベント補助
	資料整理 ライブラリー補助	研究員の調査・研究に関する資料整理補助 富士山ライブラリーの司書補助
	環境美化	館外の環境整備補助、植込整備、雑草除去
条件等	旅費・報償費支給無し、ボランティア保険加入（県負担）、 ユニフォーム貸与	

● 2-1-3 富士山保全協力金

1 概 要

静岡県は、富士山の普遍的価値（信仰の対象、芸術の源泉など）を広く後世に継承するための意識醸成を理念に、2014年度から富士山保全協力金を受け付けている。当協力金は、富士山の環境保全や登山者の安全対策を進める事業に活用しており、2024年度は、山小屋トイレの改修、ライブカメラによる山頂気象情報の配信、AED設置等に活用した。

2 各登山口の協力金受付

区 分	富士宮口	須走口	御殿場口
対 象	五合目から先に立ち入る来訪者		
期 間	2024年7月10日～同年9月10日		
記念品	木札ストラップ（富士宮口：青、須走口：赤、御殿場口：緑）		

※県富士山世界遺産課において、インターネット・コンビニ受付も実施。



3 富士山保全協力金の受入状況

2024年は2023年度と比べて協力者数は4,659人増、協力金額は5,101,345円増となった。

区 分			2024		2023		2024－2023	
			7月10日(水)～9月10日(火)		7月10日(月)～9月10日(日)			
			人数(人)	金額(円)	人数(人)	金額(円)	人数(人)	金額(円)
現 地	富士宮	五合目	26,227	26,196,330	25,361	25,294,404	866	901,926
		水ヶ塚	10,603	10,586,969	11,325	11,281,023	－722	－694,054
		小 計	36,830	36,783,299	36,686	36,575,427	144	207,872
	御殿場		8,715	8,706,332	7,725	7,648,156	990	1,058,176
	須 走		17,086	17,087,168	15,972	15,981,871	1,114	1,105,297
	小 計		62,631	62,576,799	60,383	60,205,454	2,248	2,371,345
ネ ッ ト 等	インターネット		2,862	2,862,000	174	174,000	2,688	2,688,000
	コンビニ		77	77,000	210	210,000	－133	－133,000
	県庁受付		892	892,000	1,036	717,000	－144	175,000
	小 計		3,831	3,831,000	1,420	1,101,000	2,411	2,730,000
合 計			66,462	66,407,799	61,803	61,306,454	4,659	5,101,345

● 2-1-4 富士山安全対策

1 概 要

静岡県は、山梨県と連携し、富士登山における安全確保のため、富士山須走・吉田ルート of 山頂から八合目までの登下山道の安全誘導、下山道の巡回や案内看板設置等の安全対策、八合目分岐点の道間違い対策を実施している。

2 須走・吉田ルート安全誘導員の配置

静岡県富士山世界遺産センターでは、2024年7月1日から2024年9月10日までの期間、富士山須走・吉田ルート of 山頂から八合目までの登下山道の安全誘導と下山道の八合目分岐点での道間違い防止のため、延べ376人の安全誘導員を配置した。



3 富士山須走・吉田ルート下山道安全対策

静岡県富士山世界遺産センターは、2014年の富士山須走ルート下山道九合目付近での落石による事故を踏まえ、2015年以降の富士山開山期間中、須走ルート山頂～八合目区間で、案内看板の設置や、土砂・石等の埋め戻し等の巡回業務などの安全対策を実施している。



2-2 楽しく伝える

2-2-1 常設展示リニューアル

1 育む山「富士山の自然環境」リニューアル

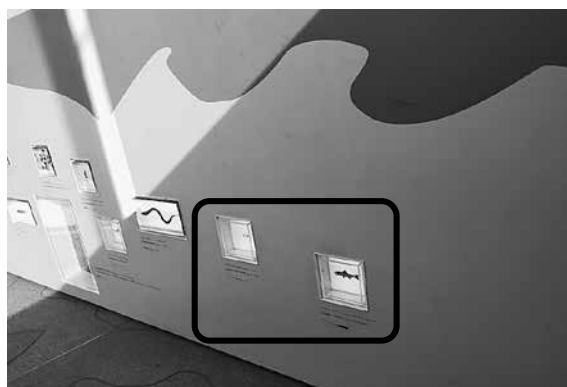
(1) 概要

「育む山」に設置している『富士山の自然環境』の展示物のうち、現状、写真展示となっているサクラエビとハダカイワシを、実物資料を用いたアクリル封入標本を製作し、入替作業を実施した。

(2) 写真



全景『富士山の自然環境』



【更新前】写真展示



【更新前】写真展示（サクラエビ）



【更新前】写真展示（ハダカイワシ）



【更新後】実物展示（サクラエビ）



【更新後】実物展示（ハダカイワシ）

2 登拝する山「タイムラプス」機器（メディアサーバー）更新

（1）概要

登拝する山のタイムラプス映像を投影するための映像機器（メディアサーバー）について、故障・不具合が多発していたため、起動時間が長くシステムが複雑なP Cから、起動時間が短く映像を再生することに特化したメディアプレーヤー（後継機）に更新した。

（2）写真



【更新前】タイムラプス映像（故障時）



【更新後】タイムラプス映像

3 映像シアター・聖なる山・美しき山機器更新

（1）概要

故障・不具合が多発していた、「映像シアター」における音響機器（アンプ類）及び「聖なる山」「美しき山」におけるタワー型P Cについて、それぞれ後継機に更新した。



【更新前】映像シアター音響機器

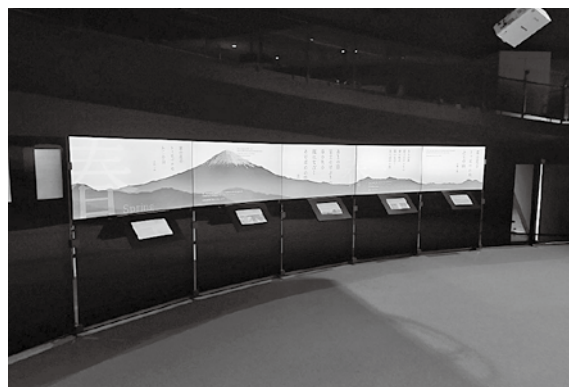


【更新後】映像シアター音響機器

（2）写真



【更新前】マルチモニター（故障時）



【更新後】マルチモニター

● 2-2-2 企画展

○企画展

「富士山の「合目」のハナシ」

会 期 2024年4月27日（土）～6月9日（日）

観 覧 料 無料（常設展観覧料のみで観覧可）

入場者数 23,543人（期間中の常設展チケット発券枚数）

概 要

現在、静岡県・山梨県の富士山の各登山道は「合目」標記が用いられている。各登山道では麓から自動車で登ることのできる限界となる地点を中間の五合目として設定し、開山期に五合目から十合目（頂上）の間を徒歩で登山することを推奨している。ただし、各登山道の各合目の標高は必ずしも同じではない。「合目」標記は各登山道で違うことは勿論、同じ登山道においても時代によって変遷しているのである。



「合目」標記は、各時代に各登山道を利用していた実態に伴い麓の集落を出発して最初の拠点からという場合もあれば、共同利用の入会部分^{いりあい}を過ぎた辺り、あるいは森林限界を越えた辺りから設定された場合もあった。また登山道の傾斜が緩やかな場所では「合目」間の距離は長くなり、標高が上がり傾斜がきつくなってくると「合目」間の距離もつまっている。

今回の企画展では、富士山の各登山道のうち前近代から近現代にかけて、ルートの変更はあるが継続して利用された山梨県側の吉田口登山道と、静岡県側の三つの登山道の富士宮ルート（大宮・村山口登山道、富士宮口登山道）、御殿場ルート（須山口登山道、御殿場口登山道）、須走ルート（須走口登山道）の各登山道の事例を取り上げながら、「合目」標記の変遷を紹介する

【主な出展作品】

- ・「富士山記」（九十九黄人氏旧蔵コレクション）
- ・「庚申大神（富士山御縁年由来）」（鈴木雅史氏旧蔵コレクション）
- ・「富士登山吉田口案内図」（小林謙光氏旧蔵コレクション）
- ・「富士山表口真面之図」（佐野宮峰氏旧蔵コレクション）
- ・「富士山表口正面図」（井出政久旧蔵コレクション）

など、計20点（所蔵は全て静岡県富士山世界遺産センター）を展示。

【関連イベント】

- ・公開講座：センター研修室

令和6年5月19日（日）：午後2時～午後3時30分

講師：大高康正（静岡県富士山世界遺産センター学芸課教授）

論題：「富士山の「合目（ごうめ）」のハナシ」

- ・ギャラリートーク：センター2階企画展示室

令和6年4月27日（土）、4月28日（日）、5月18日（土）、5月19日（日）、6月8日（土）、6月9日（日）

※各日10時30分～、13時30分～（各回30分程度）

○企画展

「富士山信仰の拠点となる湧水 —湧玉池が育む豊かな生態系—」

（静岡県富士山世界遺産センター、ふじのくに地球環境史ミュージアム、富士宮市・富士宮市教育委員会共催）

会 期 2024年7月13日（土）～9月8日（日）

入場者数 32,604人（期間中の常設展チケット発券枚数）

概 要

富士山頂への信仰の道りの出発点であるとともに、地下水の流れの終着点でもある湧玉池。そこには冷涼で清らかな湧水に育まれた生態系が形成され、絶え間なく湧き出る豊かな湧水は富士宮の歴史と文化を培っている。その湧水は自然・人為の様々な影響を受け、経路にある地下水環境とその僅かな変化をも映し出している。本企画展では、富士山湧水の象徴である湧玉

池について、学際的視点からみた4つの視点（①火山：湧玉池を作り出した富士山の噴火、②歴史：特別天然記念物「湧玉池」の歴史、③植物と底生動物：湧玉池が育む動植物、④地下水：湧玉池の湧水はどこからきたのか）における研究成果を紹介し、湧玉池及び湧玉池を構成する多面的な価値とどのように向き合えばよいかについて考える展示を行った。

【主な出展作品】

- ・「富士山南西麓の高度段彩図」（大型地図）（静岡県富士山世界遺産センター蔵）
- ・湧玉観測井の掘削試料（一部）採取地：富士宮市豊町（富士宮市蔵）



- ・淀師観測井の掘削試料（一部） 採取地：富士宮市淀師（富士宮市蔵）
- ・パホイホイ溶岩（縄状溶岩） 採取地：富士宮市山宮（奇石博物館蔵）
- ・パホイホイ溶岩 採取地：富士宮口二合目付近（静岡県富士山世界遺産センター蔵）
- ・アア溶岩 採取地：宝永火口底（ふじのくに地球環境史ミュージアム蔵）
- ・パホイホイ溶岩（縄状溶岩） 採取地：河口湖湖畔（国立科学博物館蔵）
- ・「キラウエア火山の溶岩流噴火」（映像）
- ・「縄状溶岩の3Dアニメーション」（映像）（撮影地：浅間大社、城山公園他）
- ・今川氏真朱印状『大宮司富士家文書』（静岡県立美術館蔵）
- ・御境内使用願『庶務綴自明治卅四年至明治卅六年』（浅間大社蔵）
- ・「上池で記念撮影する大宮 高等女学校（東高）の生徒たち」（写真）（富士宮市立郷土資料館蔵）
- ・「駿河富士大宮 旅館 梅月庭園（其一）」（写真）（個人蔵）
- ・「水郷の大宮、浅間神社神苑 神田川風景」（写真）（富士宮市立中央図書館蔵）
- ・「明治20年代の上池」（写真）（浅間大社蔵）
- ・『宿直日記』（大正6（1917）年8月3日条）（浅間大社蔵）
- ・「皇国国威宣揚・皇軍将士武運長久 祈願禊行事 記念写真」（写真）（浅間大社蔵）
- ・『昭和十年 社務宿直日誌』（昭和10年9月25日条）（浅間大社蔵）
- ・『浅間神社へ土地譲渡シニ関スル顛末書』『梅月土地関係・旧産報道場・湧玉会結成準備（廃案）一件書類』（浅間大社蔵）
- ・ミシマバイカモ（アクリル樹脂封入標本） 採取地：湧玉池（静岡県富士山世界遺産センター蔵）
- ・湧玉池に生息する水生昆虫 採取地：湧玉池（ふじのくに地球環境史ミュージアム蔵）
- ・カルガモ（剥製標本） 採取地：不明（ふじのくに地球環境史ミュージアム蔵）
- ・マガモ（剥製標本） 採取地：不明（ふじのくに地球環境史ミュージアム蔵）
- ・カワウ（剥製標本） 採取地：静岡市清水区三保（ふじのくに地球環境史ミュージアム蔵）
- ・ニジマス（剥製標本） 採取地：富士宮市猪之頭（富士養鱒場蔵）
- ・コカナダモ（アクリル樹脂封入標本） 採取地：湧玉池（静岡県富士山世界遺産センター蔵）
- ・カナダモ類似植物（アクリル樹脂封入標本） 採取地：湧玉池（静岡県富士山世界遺産センター蔵）

【関連イベント】

- ・公開講座
 - 7月21日（日）14：00～15：00
 - 演題：特別天然記念物「湧玉池」の歴史
 - 講師：高橋菜月 学芸員（富士宮市文化課）
 - 8月18日（日）14：00～15：00
 - 演題：湧玉池湧水が育む生態系
 - 講師：早川宗志 准教授（ふじのくに地球環境史ミュージアム）
- ・ギャラリートーク：各日 午前・午後各1回
 - 7月13日（土）・21日（日）、8月4日（日）・18日（日）、9月1日（日）・8日（日）
 - 講師：小林 淳（静岡県富士山世界遺産センター 教授）

○特別展

シリーズ江戸文化のなかの富士山 7

転回点 幕末から明治へ

―移動する徳川家茂、和宮、明治天皇、そして彼らのみた富士山―

会 期 令和 6 年 9 月 28 日（土）～11 月 4 日（月・祝）

観 覧 料 一般：700 円／70 歳以上：200 円／大学生以下：無料（常設展観覧料含む）

入場者数 4,784 人

特別協力 公益財団法人徳川記念財団

概 要

文久 3 年（1863）十四代將軍徳川家茂（1846－1866）は、將軍として三代家光以来 229 年ぶりの上洛を行う。沿道の民は家茂の姿を仰ぐことを許され、可視化された將軍の身体は、不特定多数を対象とした錦絵というメディアのなかで再生産されていく。

家茂の上洛をめぐるのは、上洛に取材した『末広五十三次』と慶応元年（1865）第二

次長州征討にともなう西上を描写した通称『御上洛東海道』という大規模な揃物が出板され、三枚続も少なからず刊行され、画中には家茂自身の姿も描かれた。

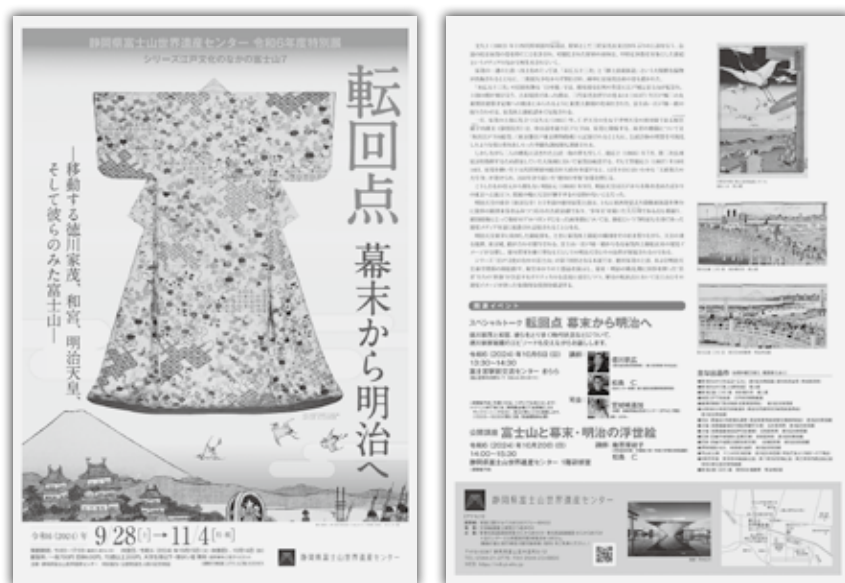
『末広五十三次』の冒頭を飾る「日本橋」では、橋を渡る行列の背景に江戸城と富士山が配され、3 羽の鶴が飛び交う。古来瑞鳥であった鶴は、三代家光治世下の寛永 14 年（1637）江戸城二の丸東照社建築予定地への飛来にみられるように東照大権現の化身とされた。富士山―江戸城―鶴の取り合わせは、家茂西上錦絵諸本で反復される。

一方、家茂の上洛に先立つ文久元年（1861）、仁孝天皇の皇女で孝明天皇の異母妹である和宮親子内親王（静寛院宮。1846－1877）は、中山道を通り江戸に下向、家茂に降嫁する。2 人の婚儀については「和宮江戸下向絵巻」（東京都江戸東京博物館蔵）に記録されるとともに、公武合体の理想を可視化したような菊と葵をあしらった華麗な調度類が調進される。

しかしながら両者の婚礼に託された公武一和の夢も空しく、慶応 2 年（1866）7 月、第二次長州征討を指揮するため滞っていた大坂城において家茂は病没する。そして翌慶応 3 年 10 月 14 日、家茂を継いだ十五代將軍徳川慶喜（1837－1913）が大政を奉還すると、12 月 9 日にはいわゆる「王政復古の太号令」が発せられ、260 年余り続いた“徳川の平和”は幕を閉じる。

こうしたなか改元から間もない明治元年（1868）9 月、明治天皇（1852－1912）は江戸から名称を改めたばかりの東京（東京）へと旅立つ。関東の地に天皇が御幸するのは例のないことだった。

明治天皇の東幸（東京行幸）と 5 年前の徳川家茂上洛は、ともに東西を結ぶ大動脈東海道を舞台に数



多の観衆を巻き込みつつ行われた政治劇であり、“少年王”を戴いた大行列（ページェント）である点も相通う。新旧政権にとって格好のプロパガンダとなった両事蹟については、錦絵という当時最も有効であった視覚メディアを通じ拡散され記憶されることとなる。

明治天皇東幸に取材した錦絵群も、ときに家茂西上錦絵の構図をそのまま借りながら、天皇の乗る鳳輦、東京城、鶴が合わせ描写される。富士山―江戸城―鶴からなる家茂西上錦絵以来の視覚イメージが交響し、徳川将軍を継ぐ聖なる王としての明治天皇とその治世が祝福されるのである。

こののち富士山は、錦絵や石版画など新旧のメディアを通じて量産される明治天皇の身体と一体化し、近代的な国民国家として歩み出した日本に新たなイメージを紡ぎ出す。

シリーズ「江戸文化のなかの富士山」の第7回目となる本展では、『末広五十三次』『御上洛東海道』ほかの家茂西上関係の錦絵群、和宮江戸下向を記録した絵巻物、明治天皇東幸関係の錦絵群を集成するとともに、和宮ゆかりの工藝品を展示し、幕末・明治の動乱期に国事を担った“若者”たちの“移動”が含意するポリティカルな意義に着目しつつ、歴史の転回点において富士山とその視覚イメージが担った象徴的な役割を確認する。

【主な出品作】（会期中展示替え・場面替えあり）

- ・歌川派合作『末広五十三次』揃 徳川記念財団蔵（徳川家茂生母・実成院所持）
- ・歌川派合作『御上洛東海道』 当センター蔵
- ・歌川広重（二代） 東都日本橋行烈 個人蔵
- ・和宮江戸下向絵巻 東京都江戸東京博物館蔵
- ・鶴澤探真筆「源氏物語 紅葉賀図屏風」 徳川記念財団蔵
- ・女乗物・書棚ほか和宮所持雛道具（黒塗牡丹唐草葵浮線菊紋散蒔絵） 徳川記念財団蔵
- ・文台・硯箱ほか和宮婚礼調度（黒塗葵葉菊紋紋散花桐唐草蒔絵） 徳川記念財団蔵
- ・小袖（浅葱縮緬地松竹梅桜菊網干文様） 伝和宮所用 徳川記念財団蔵
- ・小袖（浅葱縮緬地松桜芦羽衣模様） 伝和宮所用 徳川記念財団蔵
- ・打掛（白綸子地菊葵七宝繫文様） 伝和宮所用 徳川記念財団蔵
- ・打掛（白綸子地雲立涌菊折枝文様） 伝和宮所用 徳川記念財団蔵
- ・伊勢物語かるた 和宮（静寛院宮）婚礼道具 徳川記念財団蔵
- ・円山応立筆 十二か月花鳥図巻 徳川記念財団蔵
- ・月岡芳年画 東京府中橋通街之図／其二東京府京橋之図／其三東京府銀座通之図
神奈川県立歴史博物館蔵
- ・三代歌川広重画 東京日本橋勝景 明治神宮蔵

【関連イベント】

スペシャルトーク 転回点 幕末から明治へ

日時：2024年10月6日（日） 13：30～14：30

会場：富士宮駅前交流センターきらら（富士宮市中央町）

講師：徳川家広（公益財団法人徳川記念財団理事長・徳川宗家第19代当主）

松島仁（静岡県富士山世界遺産センター教授／徳川記念財団特別研究員）

司会：宮城嶋遙加（俳優・SPAC所属）

公開講座 富士山と幕末・明治の浮世絵

日時：2024年10月20日（日） 13：30～15：00

会場：静岡県富士山世界遺産センター 1 階研修室

講師：庵原理絵子（浮世絵研究家／学習院大学・中央大学等非常勤講師）

松島仁

その他、会期中に適宜ギャラリートークを実施

○企画展

「ぐるり富士山旅めぐり ―肉筆鳥瞰図にみる富士山周辺の観光開発―」

会 期 2024年12月7日（土）～2025年1月26日（日）

観 覧 料 無料（常設展観覧料のみで観覧可）

入場者数 20,653人（期間中の常設展チケット発券枚数）

概 要

明治時代における国家的な鉄道敷設事業を経て、大正時代から昭和初期にかけての時期は、「大観光時代」と呼ばれるほどに観光がブームになった。日本各地では、多くの観光客を迎えるための観光開発が積極的におこなわれ、多くの観光地の基礎がこの時期に形成されたと言っても過言ではない。箱根や熱海、伊豆半島を含めた富士山周辺地域も例外ではなく、鉄道やバスなどの公共交通機関を基幹とする観光開発がおこなわれるとともに、観光地の宣伝のためのパンフレットを作るための原画として、吉田初三郎や彼の弟子たちの手により肉筆の鳥瞰図が数多く描かれた。

本展示会では、観光パンフレットの原画として用いられた肉筆の鳥瞰図を中心に、以下のテーマのもとで、富士山周辺地域の観光開発の動きを捉えるとともに、この地域を訪れる人々や、観光開発に活路を見いだした人々が、富士山に何を求めていたのかを探る。

テーマ1 富士山への旅と吉田初三郎の鳥瞰図

交通鳥瞰図のパイオニア、吉田初三郎が描いた富士山周辺の鳥瞰図から、富士山周辺の鉄道と観光地の発達を探る。

テーマ2 吉田初三郎と富士山

吉田初三郎は鳥瞰図だけではなく、富士山をテーマにしたポスター等も制作している。これらの作品から、彼の富士山に対する想いを探る。

テーマ3 吉田初三郎を受け継ぐ弟子たち

吉田初三郎の工房とその技術を学んだ弟子たちは、後に独立してそれぞれの道を歩んでいく。ここでは、吉田初三郎の弟子たちによる富士山を描いた鳥瞰図を取り上げる。

テーマ4 最後の鳥瞰図絵師、中村治郎が描いた富士山

吉田初三郎の画風を最もよく受け継ぎ、静岡・神奈川・山梨を拠点に精力的に活動した中村治郎の作品や、中村家に残された鳥瞰図関連資料から、その制作工程を探る。それとともに、中村治郎が思い描いた富士山の未来の姿を紹介する。

【主な展示資料】

- ・東京駅ホーム壁画原画（静岡県富士山世界遺産センター蔵）
- ・熱海・小田原交通鳥瞰図（静岡県富士山世界遺産センター蔵）
- ・伊豆長岡温泉小川屋旅館を中心とする史蹟観光鳥瞰図（静岡県富士山世界遺産センター蔵）
- ・富士大展望 御殿場口（御殿場市立図書館蔵）
- ・富士を背景とせる沼津三島（沼津市明治資料館蔵）
- ・国立公園山中湖観光鳥瞰図（中村洋志氏蔵）
- ・中村治郎鳥瞰図下書および制作日記等（中村洋志氏蔵）
- ・平塚鳥瞰図（静岡県富士山世界遺産センター蔵）
- ・箱根名所図絵（萬翠楼福住蔵）
- ・鳴沢鳥瞰図（鳴沢村役場蔵）
- ・中野村と周辺観光鳥瞰図（山中小学校蔵）
- ・北富士総合開発鳥瞰図（天野一兵ヱ氏蔵） など

【関連イベント】

- ・公開講座

2024年12月15日（日）：午後2時～午後3時（事前申込30名）

論題：「父、中村治郎の鳥瞰図制作を語る」

講師：中村洋志氏（鳥瞰図絵師中村治郎の御子息）

聞き手：井上卓哉（静岡県富士山世界遺産センター）

- ・ギャラリートーク（担当：井上卓哉）

2024年12月7日（土）午前・午後、12月22日（土）午前、

2025年1月1日（水）午前・午後、1月12日（日）午前・午後、1月26日（日）午前・午後、
計9回開催



○企画展

第5回 絶景・秀景 富士山世界遺産写真コンテスト入賞作品展

会 期 2025年2月22日～2025年3月23日

観 覧 料 無料（常設展観覧料のみで観覧可）

入場者数 18,430人（期間中の常設展チケット発券枚数）

概 要

静岡県では「富士山の日」の推進運動の一環として、2019年度まで「秀景ふるさと富士写真コンテスト」及び写真展を10回開催した。2020年度からは公益社団法人静岡県観光協会、NHK静岡放送局と共催し、これまでの全国各地の「ふるさと富士（見立て富士）」を撮影した「秀景ふるさと富士」部門に加え、静岡県側から「富士山」を撮影した「絶景しずおか富士山」部門の2部門からなる「絶景・秀景 富士山世界遺産写真コンテスト」を実施してきた。本企画展は5回目の入賞作品展となり、応募総数1,131点の中から、審査委員長沼田早苗氏、審査委員織作峰子氏、西田省三氏が厳選した80点の入選作品を展示した。

【出展作品】

・「絶景しずおか富士山」部門

グランプリ 「霧たつ霊峰」落合正和（撮影場所：西臼塚（富士宮市））

静岡県観光協会会長賞 「茶波のような春」武井恵美子（撮影場所：天間の茶畑（富士市））

NHK静岡放送局長賞 「富士の激流」石川昌之（撮影場所：富士川（富士市））

他47作品

・「秀景ふるさと富士」部門

グランプリ 「初夏の公園から」岩本康裕（一岩山（下田富士）静岡県）

静岡県富士山世界遺産センター館長賞 「厳凍の山水」鈴木彦三（磐梯山（会津富士）福島県）

他28作品



絶景しずおか富士山部門グランプリ



秀景ふるさと富士部門グランプリ



● 2-2-3 アトリウム展示活動

静岡県富士山世界遺産センター1階アトリウムでは、様々な機関と連携し、作品展示等を行った。

(1) 富士市

(2024年9月4日～11日)

富士市から見える美しい富士山を広くPRするために毎年開催している「富士山百景写真コンテスト」の上位入賞作品8点を展示した。また、周遊を促すため、富士市内の案内パンフレット等を配架した。



(2) 富士山憲章山梨県推進会議（山梨県）

(2024年9月13日～26日)

富士山憲章事業の一環として「富士山憲章」の普及定着を図り、かつ環境保全に取り組む山梨県富士山レンジャーの活動を周知する機会として「富士山レンジャー写真展」を開催した。



(3) 静岡県富士山世界遺産センター（協力：公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会）

(2024年10月1日～31日)

パリオリンピックで活躍をしたスポーツクライミング日本代表のユニフォームには、日本のクライミング文化を想起させるモチーフとして朝焼けに染まる藍色の富士山が大きく描かれていた。

日本代表が着用したものと同じユニフォームを借用し展示を行った。



(4) 富士山憲章山梨県推進会議（山梨県）

(2024年12月4日～19日)

富士山憲章事業の一環として「富士山憲章」の普及定着を図るため、山梨県が開催した富士山に宛てた年賀状コンクールの入賞・入選作品巡回展を開催した。



2-2-4 教育旅行受入

1 教育旅行の受入

静岡県富士山世界遺産センターの基本コンセプトのひとつ「楽しく伝える」として、富士山の「楽習」機会の提供“学習支援”が位置付けられている。その一環としてセンターへの教育旅行団体の誘致促進に取り組んでいる。

2 受入実績概要

2024年度は、下表のとおり、静岡県内を中心に、首都圏、中部圏のほか海外から、延べ172校の学校等団体の来館があった。



来館時の説明



5階展望ホールの修学旅行生徒

教育旅行来館数（2024年4月1日～2025年3月31日）

（単位：件）

	静岡県内			県外			※４ 海外
	東部	中部	西部	※１ 首都圏	※２ 中部圏	※３ その他	
保育園 幼稚園	9	0	0	0	0	0	0
小学校	17	30	0	2	0	0	4
中学校	15	2	5	11	2	1	14
高等学校	9	5	2	2	1	6	5
大学	0	2	0	8	2	2	3
専門学校 各種学校	9	4	0	0	0	0	0
小計	59	43	7	23	5	9	26
	109			37			
合計	172						

※1…東京都（7）、山梨県（7）、千葉県（4）、神奈川県（4）、埼玉県（1）

※2…愛知県（3）、三重県（2）

※3…大分県（2）、滋賀県（1）、京都府（1）、大阪府（1）、兵庫県（1）、奈良県（1）、岡山県（1）、愛媛県（1）

※4…中国（16）、オーストラリア（4）、シンガポール（2）、アメリカ（1）、韓国（1）、ギリシャ（1）、タイ（1）

また、2024年度の来館者182,125人（うち、観覧券発券数174,294枚）のうち、小人の入場券発券数20,739枚（全発券数の11.9%）、学生の入場券発券数10,904枚（全発券数の6.3%）であった。その内、教育旅行での受付人数は小人（幼稚園・保育園・小学校・中学校）6,974人（小人発券数の33.6%）、学生（高等学校・大学・大学院・専門学校等）2,320人（学生発券数の21.3%）であった。（※チケット区分 [小人] 15歳未満の児童・生徒、[学生] 15歳以上の生徒・学生）

教育旅行団体来館時に提供するクイズシート（小学校向け：A4両面印刷）



ワークシート（中学～高等学校向け：B4二つ折見開き）



(表表紙)



(見開き)

(裏表紙)



● 2-2-5 出前講座

1 富士山世界文化遺産出前講座の概要

富士山の自然や文化、世界遺産についての基礎知識をわかりやすく説明し、富士山についての理解と関心を高め、世界遺産「富士山」の後世継承への気運を高めることを目的として、富士山世界文化遺産出前講座を実施している。小・中・高校の総合的な学習の時間や、特別活動における野外活動の事前学習のほか、生涯学習センター等各種団体からの依頼を受けて講師を派遣して講座を実施している。2024年度は、2023年度に引き続き、過去最多の利用数であった。

2 地区・対象別実施数・人数（2024年4月1日～2025年3月31日）

〈一般〉

	地 区				合計
	東部	中部	西部	他	
件数（件）	14	27	8	1	49
人数（人）	465	966	241	46	1,718

〈学校〉

	地区別件数（件）					人数（人）
	東部	中部	西部	県外	合計	
小学校	12	7	0	1	20	1,073
中学校	11	0	3	0	14	1,311
高 校	4	1	0	1	6	543
特別支援	0	0	0	0	0	0
専 門	0	0	0	0	0	0
大 学	0	2	1	0	3	247
合 計	27	10	4	2	43	3,174

3 分野・タイトル別実施数

〈富士山入門〉(担当：美澤主幹・長嶋主査)	件数 (件)			人数 (人)
	学校	一般	合計	
ふじさんってどんな山？	3	2	5	2,783
世界遺産の富士山を学ぼう	30	10	40	
合 計	33	12	45	

〈各論 文化：美術〉(担当：松島教授)	件数 (件)			人数 (人)
	学校	一般	合計	
富士山と源氏物語―“古典”の政治学	0	4	4	226
日本の美と心―富士山	0	2	2	
徳川将軍と富士山	0	0	0	
海を越えた富士山―外国に遣わされた絵画と工芸	0	3	3	
合 計	0	9	9	

〈各論 自然科学：火山・地質・防災〉(担当：小林教授)	件数 (件)			人数 (人)
	学校	一般	合計	
静岡県の活火山を比較してみよう	0	1	1	699
富士山の噴火史と火山防災 (ハザードマップの読み方)	4	5	9	
富士山に刻まれた噴火の痕跡を地形から読み解く	0	3	3	
富士山が与えてくれる恵みについて―湧水・地下水	0	0	0	
合 計	4	9	13	

〈各論 歴史：信仰〉(担当：大高教授)	件数 (件)			人数 (人)
	学校	一般	合計	
富士山信仰を歴史から学ぶ	2	3	5	669
富士山の参詣曼荼羅の絵解き	0	1	1	
富士山の縁起を知る～赫夜姫	0	3	3	
富士山の「合目」標記の変遷	0	3	3	
合 計	2	10	12	

〈各論 民俗〉(担当：井上准教授)	件数 (件)			人数 (人)
	学校	一般	小計	
富士山のふもとで生きる	1	4	5	489
頂に挑む～登山案内図や登山記にみる富士登山	1	1	2	
富士山の御札	0	0	0	
日本の象徴―富士山	2	3	5	
合 計	4	8	12	

〈各論 文学〉(担当：青木准教授)	件数 (件)			人数 (人)
	学校	一般	合計	
絵とともに楽しむかぐや姫の物語と富士山	0	0	0	26
『竹取物語』と儀式の場としての富士山	0	0	0	
『竹取物語』と富士山のかぐや姫伝承	0	0	0	
『伊勢物語』の旅と富士山	0	1	1	
合 計	0	1	1	

総合計
92件 (4,892人)

2-2-6 館内講座

1 館内講座の概要

富士山について様々な文化から学ぶ機会の提供を目的として、一般の方々を対象に館内講座を実施した。毎月第3日曜日を開催基準日に設定し、センターの研究員や外部の専門家と一般の方々が、富士山を題材に「広く交わる」ことができる講座を開催してきた。

2 実施状況

開催日	講 座 名	講 師	人数 (名)
4月21日 (日)	富士宮の古環境 —富士山ができる以前の動物相を中心に—	ふじのくに地球環境史ミュージアム 西岡 佑一郎	25
5月19日 (日)	企画展「富士山の『合目』のハナシ」関連講座 富士山の「合目」のハナシ	静岡県富士山世界遺産センター 大高 康正	30
6月16日 (日)	富士山頂上に住む写真家が撮る頂上の現状	富士山頂上写真家 植田 めぐみ	28
7月21日 (日)	企画展「富士山信仰の拠点となる湧水—湧玉池が育む豊かな生態系—」関連講座 特別天然記念物「湧玉池」の歴史	富士宮市教育委員会事務局 教育部文化課 高橋 菜月	48
8月18日 (日)	企画展「富士山信仰の拠点となる湧水—湧玉池が育む豊かな生態系—」関連講座 湧玉池湧水が育む生態系	ふじのくに地球環境史ミュージアム 早川 宗志	48
9月15日 (日)	近代皇室と富士山の美術	皇居三の丸尚蔵館 田中 純一郎	28
10月20日 (日)	特別展「転回点～幕末から明治へ～移動する徳川家茂、和宮、明治天皇、そして彼らのみた富士山」関連講座 富士山と幕末・明治の浮世絵	浮世絵研究家/学習院大学ほか 庵原 理絵子 静岡県富士山世界遺産センター 松島 仁	26
11月17日 (日)	静岡の大地の成り立ち ～富士山はいつ誕生した？～	NPO法人ホールアース自然学校 津田 和英	29
12月15日 (日)	企画展「ぐるり富士山旅めぐり～肉筆鳥瞰図からみる富士山周辺の観光開発～」関連講座 父、中村治郎の鳥瞰図制作を語る	中村 洋志 静岡県富士山世界遺産センター 井上 卓哉	26
1月19日 (日)	富士山と平安文学	静岡県富士山世界遺産センター 青木 慎一	27

開催日	講 座 名	講 師	人数 (名)
2月16日 (日)	富士登山のリスクマネジメント	静岡大学教育学部 村越 真	30
3月16日 (日)	ふるさと富士の魅力	山岳写真家 西田 省三	34
		合 計	379



公開講座の様子

● 2-2-7 富士山世界遺産セミナー

1 概要

静岡県富士山世界遺産センターで実施している調査・研究や、富士山に係る調査・研究の成果を広く社会に還元するため、富士山世界遺産セミナーを開催している。2024年度は富士宮市において第15回目のセミナーを開催した。

2 2024年度開催実績

開催日	共催市町・共催企業 (会場)	テーマ・内容	参加人数
11月30日 (土)	富士宮市 (富士宮市役所特大会議室)	「雲の上の診療所からのメッセージ —安全な富士登山のために、今伝えたいこと—」 講師：大城 和恵 (国際山岳医・富士山衛生センター勤務)	110人

3 富士宮市におけるセミナーの様子



ポスター



会場の様子

● 2-2-8 富士山世界遺産コラム

1 概要

2021年度まで発行・ホームページで公開していた『世界遺産ニュースレター』に代わり、2022年度から『富士山世界遺産コラム』をセンター公式ホームページで公開するとともにメールマガジンや公式SNSで配信し、センター研究員の研究成果や富士山に関わる情報を届けている。

2 実績

配信・公開時期(号数)	内 容	担当者
2024年 4 月 (第23号)	幕末期外交史のなかの富士山	松島 仁 教授
2024年 5 月 (第24号)	九十九コレクション「富士浅間」扁額の由来	大高康正 教授
2024年 6 月 (第25号)	富士山に挑んだ外国人列伝① ～エドワード・H・ハウス～	井上卓哉 准教授
2024年 7 月 (第26号)	「かぐや姫の物語」と『竹取物語』	青木慎一 准教授
2024年 8 月 (第27号)	富士山噴火の痕跡を巡る (その4) —裾野溶岩流：景ヶ島溪谷屏風岩の柱状節理—	小林 淳 教授
2024年 9 月 (第28号)	富士山のイメージ	小室勝彦 課長
2024年10月 (第29号)	徳川家茂の上洛・西上と錦絵 —富士山イメージの転回点	松島 仁 教授
2024年11月 (第30号)	「高田富士」以前に存在した静岡県内の富士塚	大高康正 教授
2024年12月 (第31号)	山に酔う —富士山における高山病（高度障害）の民俗—	井上卓哉 准教授
2025年 1 月 (第32号)	江戸時代に作られた竹取物語絵の世界 —富士山の絵画化との関連から—	青木慎一 准教授
2025年 2 月 (第33号)	富士山噴火の痕跡を巡る (その5) —富士相模川泥流：富士山北麓で発生した噴火が引き起こした大規模火山泥流—	小林 淳 教授
2025年 3 月 (第34号)	富士山の気象と登山	美澤綾子 主幹

● 2-2-9 ホームページ・SNS・YouTubeによる情報発信

静岡県富士山世界遺産センターでは、デジタル社会のより一層の推進等、センターを取り巻く環境の激変に対応するべく、インターネットにおける情報発信の手段において、ホームページおよびfacebookのほか、X（旧 Twitter）・Instagram・YouTubeを開設し、情報発信力の強化を図っている。

ホームページでは主に、企画展やイベントの情報を、SNSでは主に、イベント開催実績などタイムリーな出来事を発信した。

HP アドレス：<https://mtfuji-whc.jp/>

Facebook アドレス：<https://www.facebook.com/TheFujisanWHC>

Twitter アドレス：<https://mobile.twitter.com/Mtfujiwhc3776>

Instagram アドレス：https://www.instagram.com/mtfuji_whc_shizuoka/

YouTube アドレス：<https://www.youtube.com/channel/UCOpJNr22jCPxVNFJPsx8f8A>

(2025年 3月31日現在)

	HP	Facebook	X	Instagram	YouTube
アクセス・登録者数	203,772	2,037	1,435	2,655	34



● 2-2-10 メール会員

1 概要

静岡県富士山世界遺産センターでは、企画展や各種イベント情報等、センターの最新情報をメールマガジンで配信するメール会員の募集・運用を行っている。毎月1日に発信。

会員数1,551人（2025年3月31日現在）

募集アドレス

<https://mtfuji-whc.jp/mailmagazine/>

静岡県富士山世界遺産センター
Mt.FUJI WORLD HERITAGE CENTRE, SHIZUOKA

メール会員

募集集中!

企画展やイベント、講座情報など旬な話題をメールで配信!
会員限定の特別企画・イベント情報などお得な情報をいち早くゲット!

ご登録はこちら

Step 1 QRコードを読み取ってアクセス
Step 2 メールが立ち上がり空メール送信
Step 3 空メール受付完了メール内のアドレスにアクセス
Step 4 メールアドレスの入力と、居住地を選択し、送信。
Step 5 入力事項を確認し、登録送信完了。

登録完了

※送信メールアドレスを利用している場合、静岡県富士山世界遺産センターからのメールを受信できないことがあります。
※送信料はお客様ご負担となります。 ※ご登録いただいたメールアドレスは、静岡県富士山世界遺産センターからのご案内に利用いたします。

静岡県富士山世界遺産センター

【2025.2.1号】
静岡県富士山世界遺産センターメールマガジン

静岡県富士山世界遺産センター

静岡県富士山世界遺産センター
Mt.FUJI WORLD HERITAGE CENTRE, SHIZUOKA

メール会員

< 今月号のラインナップ >
▼ 富士山の日観覧無料
▼ 企画展のご案内
▼ 館内イベントのご案内
▼ 今月の富士山世界遺産コラム

静岡県富士山世界遺産センター

ふじさんの日
2月23日は
どなたさまも
観覧料無料!

開館時間
9-17時
観覧料 16歳以下
16歳30円

静岡県では2月23日を「富士山の日」と定めています

当センターでは、富士山の日になみな、
2月23日は観覧料が無料!
ぜひこの機会にご来館ください

／富士山の日イベント詳細は【こちら】

企画展 (2/22~3/23)
第5回 絶景・秀景
富士山世界遺産写真コンテスト入賞作品展

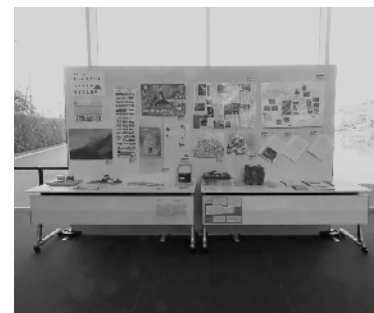
絶景
秀景
富士山世界遺産
写真コンテスト
入賞作品展

2-3 広く交わる

2-3-1 地域貢献・広域連携（富士山ネットワーク推進委員会）

1 概要

地域貢献、富士山周辺の博物館施設との広域連携を目的に、静岡県富士山世界遺産センターは、2018年度から「富士山ネットワーク推進委員会（以下、富士山ネットワーク）」に加盟している。「富士山ネットワーク」とは富士山を中心に点在する博物館関係施設が、サービスの向上と効果的なPRを目指して1993年に組織したもので、「富士山かぐや姫ミュージアム」「富士山樹空の森」「奇石博物館」「富士サファリパーク」「富士山こどもの国」と当センターの6館園が加盟している。



巡回展の様子（1階アトリウム）

館園長会議	書面決裁で実施。
ぐるりんコンテスト	夏休みに小学生を対象に、作文、絵日記、工作などの作品を募集する「夏休み富士山ぐるりんコンテスト」、同コンテスト審査会、表彰式、入賞作品の各館園での巡回展を行なった。また、入賞作品集を作成した。
PRイベント	各館のイベントに出展し、クイズや体験ブースを設置するPR活動を実施した。
その他	PR方法として、SNSを活用した館園写真掲載等を継続的に行なった。

2 主な活動

月 日	内 容（※定例会は主なもの）	場 所 ・ 備 考
4 月	館園長会議	※書面決済にて実施。
〈定例会〉 4月17日 5月24日 6月18日 7月17日 9月4日 10月11日 11月15日 12月20日 1月15日 2月19日 3月12日	〈定例会内容〉 館園長会議調整、準備他 「ぐるりんコンテスト」の準備他 PRイベントの報告と確認他 「ぐるりんコンテスト」広報について確認他 ※8月実施せず 「ぐるりんコンテスト」審査会他 「ぐるりんコンテスト」表彰式 最終確認 PRイベントの報告、今年度事業の中間報告 次年度事業計画、予算の検討 ぐるりんコンテスト巡回展について確認他 ぐるりんコンテスト作品集作成について他 次年度事業計画の確認他	〈定例会開催場所〉 富士山かぐや姫ミュージアム（4月） 奇石博物館（5月） 悪天候のため書面開催（6月） 富士山世界遺産センター（7月） 富士山かぐや姫ミュージアム（9月） 奇石博物館（10月） 富士山こどもの国（11月） 富士山かぐや姫ミュージアム（12月） 富士山世界遺産センター（1月） 富士山樹空の森（2月） 富士サファリパーク（3月）
10月中旬～ 3月中旬	「ぐるりんコンテスト」入賞作品の巡回展示	加盟館園 ※富士山世界遺産センター最終

● 2-3-2 視察受入

1 概 要

令和6年度の自治体の世界遺産及び施設運営関係部署等による視察、観光関係等の企業・各種団体の視察は、令和5年度より総件数は16件増加し62件、総人数も255人増え894人を受け入れた（令和5年度は46件、639人）。

特に、民間及び本県機関によるファムトリップ（旅行会社、メディアや教育機関による下見的な視察）が14件から21件へと増えており、今後の送客が期待できる。

（1）件数

（単位：件）

行政・議会							民間	その他 団体	合計
静岡県	県内市町	国	他県	海外 (国)	海外 (自治体)	小計			
6	3	1	10	5	6	31	20	11	62

（2）人数

（単位：人）

行政・議会							民間	その他 団体	合計
静岡県	県内市町	国	他県	海外 (国)	海外 (自治体)	小計			
170	83	35	86	20	55	449	194	251	894

2-4 深く究める

2-4-1 巡礼路調査

1 概 要

静岡県（事務局：静岡県富士山世界遺産センター）では、これまで総合調査が実施されていない登山道及び山麓の構成資産間を結ぶ巡礼路の研究計画を策定するとともに、巡礼路等の調査を実施するため、2015年に考古学、歴史学、民俗学、美術史といった各分野の学識者で構成される「富士山巡礼路調査委員会」を設置した。

2015年度から2018年度にかけては、小山町との連携の下に須走口登山道の調査を実施し、2017年度から2020年度にかけては、富士市及び富士宮市との連携の下に大宮・村山口登山道の調査を実施し、各々報告書を刊行した。

2021年度から2024年度にかけて、裾野市及び御殿場市との連携の下に、須山口登山道・御殿場口登山道の調査を行っているが、2024年度は調査期間の最終年度として、2025年3月に報告書を刊行した。

2 富士山巡礼路調査委員会の構成

職 名	氏 名	専攻分野	職 名
委 員 長	中村羊一郎	民 俗 学	静岡市歴史博物館名誉館長
副委員長	菊池邦彦	日 本 近 世 史	東京都立産業技術高等専門学校名誉教授
委 員	時枝務	歴 史 考 古 学	立正大学文学部教授
委 員	松田香代子	民 俗 学	松田民俗研究所代表
委 員	山本勉	美術史（仏像）	鎌倉国宝館長

※事務局 静岡県富士山世界遺産センター学芸課（担当 大高康正）

3 事務局及び各市町担当者の業務内容

- （1）富士山巡礼路調査委員会への出席
- （2）調査予定先との連絡調整、現地調査の立会い
- （3）登山道の経路を把握するための現地踏査（GPSデータの取得）
- （4）現地調査先での資料調査（聞き取り調査、資料撮影など）
- （5）調査成果の整理（撮影資料の目録採録、巡礼路調査報告書の分担執筆）

4 2024年度の調査内容（委員出席調査のみ抜粋）

- ・ 5月28日 同年度第一回調査委員会（中村委員長、菊池副委員長、時枝委員、松田委員、山本委員出席）
- ・ 7月9日 御殿場口登山道大石茶屋の現地調査（松田委員出席）
- ・ 8月26日・27日 御殿場口登山道赤岩八合館の現地調査（松田委員出席）
- ・ 8月28日～30日 裾野市立富士山資料館保管資料の調査（菊池副委員長出席）
- ・ 11月15日 裾野市立富士山資料館・須山観音堂保管資料の調査、西田中八幡宮および新橋浅間神社の現地調査（菊池副委員長、松田委員出席）
- ・ 11月29日 三島市内（長圓寺）の仏像調査（松田委員、山本委員出席）

その他、富士山巡礼路調査委員、裾野市担当職員、御殿場市担当職員、当センター研究員との分担で、報告書『富士山巡礼路調査報告書 須山口登山道・御殿場口登山道』の原稿執筆および編集作業を行い、刊行した。



御殿場口登山道山小屋調査
（赤岩八合館）



須山口登山道関連資料調査
（須山観音堂）

● 2-4-2 研究活動

○松島 仁（まつしま じん）教授

1 著書（編著・単著）

〔編著（単著）〕

- ・『転回点 幕末から明治へー移動する徳川家茂、和宮、明治天皇、そして彼らのみた富士山ー』（特別展図録）松島仁編著 静岡県富士山世界遺産センター発行 2024年9月 単著論文「徳川家茂から明治天皇へー富士山イメージの転回点」・全作品解説・図版リスト（4～71頁〈総ページ数72頁〉）

〔共著〕

- ・『帝鑑図と帝鑑図説 日本における勸戒画の受容』小助川元太・薬師寺君子・野田麻美・水野裕史編集 勉誠社発行 2024年11月 単著論文「帝鑑図と権力」（301～308頁〈総ページ数408頁〉）

2 論文

- ・「将軍と天皇の富士山ー江戸城と内裏の名所絵をめぐってー」単著 『富士山学』第5号（特集：文化・自然から見る富士山 【テーマ1】文学と絵と富士山と）静岡県富士山世界遺産センター編集 雄山閣発行 2025年3月 32～47頁

3 報告書等

- ・『富士山巡礼路調査報告書 須山口登山道・御殿場口登山道』静岡県富士山世界遺産センター編集・発行 2025年3月 単著論文「須山口登山道を描いた絵画 小泉檀山の富士登山図諸本と谷文晁筆「富士山中真景全図」を中心に」（206～213頁〈総ページ数350頁〉）

4 その他の執筆

- ・「幕末外交史のなかの富士山」富士山世界遺産コラム vol.23 静岡県富士山世界遺産センター編集・発行（インターネット発信） 2024年4月
- ・「富士山絵画史の構築 2023年度の成果から」『鹿島美術研究』年報第41号別冊 公益財団法人鹿島美術財団編集・発行 2024年11月 611～618頁〈総ページ数696頁〉
- ・「徳川家茂の上洛・西上と錦絵ー富士山イメージの転回点」『富士山世界遺産コラム』vol.29 静岡県富士山世界遺産センター編集・発行（インターネット発信） 2024年10月

5 学会発表

- ・「帝鑑図と権力」単独 帝鑑図説研究会（オンライン） 2024年4月13日
- ・「富士山の政治学ー徳川将軍から近代天皇へー」単独 於国際日本文化研究センター（京都府京都市） 2025年2月15日

6 一般講演

- ・「富士山と源氏物語 古典の政治学」ふじさんネットワーク富士山勉強会 於プラザヴェルデ（沼津市） 2024年6月15日
- ・「絵画における富士山と三保松原」みほしるべ開館5周年記念講演会 於静岡市三保松原文化創造センター 2024年6月16日
- ・「富士山と源氏物語 古典の政治学」於焼津市大富公民館（焼津市） 2024年6月19日
- ・「海を越えた富士山ー外国に遣わされた絵画と工芸ー」於宮本区民会館（富士宮市） 2024年7月10日

- ・「富士山と源氏物語 古典の政治学」 於焼津市東益津地域交流センター（焼津市） 2024年7月11日
- ・「海を越えた富士山―外国に遣わされた絵画と工芸―」 於駅前交流プラザきらら（富士宮市） 2024年7月24日
- ・「スペシャルトーク 転回点―幕末から明治へ―」（公益財団法人徳川記念財団理事長〈徳川宗家第19代〉徳川家広氏との対談） 於駅前交流プラザきらら 2024年10月6日
- ・「富士山と源氏物語 古典の政治学」 於浜松市立北図書館（浜松市） 2024年10月10日
- ・「館内講座 転回点―幕末から明治へ―」 於静岡県富士山世界遺産センター 2024年10月20日
- ・「富士山とともに―我が人生を語る―」（遠山敦子館長〈当時〉との対談／聞き手） 於静岡県富士山世界遺産センター
- ・「日本の美と心 富士山」 いきいき大学 県民カレッジ連携講座 於浜松市雄踏協働センター（浜松市） 2025年2月21日
- ・「日本の美と心 富士山」 ちばシニア塾「やっぱり富士山が好き！」 於千葉市生涯学習センター（千葉県千葉市） 2025年3月4日

7 授業 なし

8 社会的活動

（1）委員・役員

- ・静岡県文化財保護審議会審議委員
- ・富士山ボランティアセンター（山梨県立富士山世界遺産センター）「富士さんへ謹賀新年―富士山あて年賀状―」審査員

（2）非常勤講師・客員教員等

〔特別・共同研究員〕

- ・公益財団法人徳川記念財団 特別研究員
- ・人間文化研究機構 国際日本文化研究センター 共同研究員
- ・人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館 共同研究員

（3）査読 なし

（4）学術交流・研究会の開催

- ・2023年度科学研究費補助金 基盤研究（B）「富士山とナショナリズム：近現代史における神話的シンボルに関する学際的研究」 代表須藤遥子 2023年4月～2027年3月 研究分担者 2025年3月10日摂南大学で研究会開催
- ・公益財団法人徳川記念財団との旧徳川将軍家コレクション共同悉皆調査 2024年4月～2025年3月 月二回調査を実施
- ・富士宮市文化課との富士山本宮浅間大社所蔵資料共同調査 2024年10月26日・2025年3月12日
- ・米国ルイス&クラーク大学教授アンドリュー・バーンスタイン氏との富士山研究協議 2024年5月30日
- ・ライデン国立世界博物館学芸員ダン・コック氏との楽寿園・願成就院共同調査 2024年3月8日

（5）他施設・団体への協力と県民からの問い合わせ対応

- ・適宜対応

9 テレビ・ラジオ・新聞等への出演

〔テレビ〕

〈全国放送〉

- ・『美の壺』「唯一無二の山 富士山」 NHK 総合 2024年9月28日（2023年NHK・BS放映分の地上波における放送）
- ・『歴史探偵』「富士山と日本史」 NHK 総合 2024年9月18・24日、2025年1月1日
- ・『木下容子ワイドスクランブル』「日米会談 黄金の兜予約殺到／贈答品の歴史に驚きの秘話」 テレビ朝日 2025年2月20日

〈地方放送〉

- ・「幕末から明治に描かれた富士山を紹介 特別展」 NHK 静岡放送局 2024年10月13日

〔ラジオ〕

- ・ラジオエフ ミュージアムリンク 2024年9月30日
- ・ラジオエフ ミュージアムリンク 2024年10月21日

〔新 聞〕

- ・「作中の富士山 象徴の変化紹介」 静岡新聞・県内総合 2024年9月28日
- ・「富士山の象徴的役割 幕末明治の転回点 世界遺産センター特別展」 富士ニュース 2024年10月5日
- ・「県富士山世界遺産センター 幕末・明治期の錦絵など展示 来月4日まで特別展」 岳南朝日 2024年10月5日
- ・「幕末の富士 錦絵で堪能 富士宮 将軍家調度品も紹介」 読賣新聞・地域版（静岡） 2024年10月11日
- ・「徳川さんらがスペシャルトーク 特別展「転回点」に合わせ 県富士山世界遺産センター」 岳南朝日 2024年10月18日
- ・「富士山 日本の象徴 米軍も認識？ 支配誇示プロパガンダか」 静岡新聞・第一社会面 2025年2月23日

10 海外学術調査

- ・作者未詳「熙代勝覧」ほかの調査 於フンボルト・フォーラム（ドイツ・ベルリン） 2024年6月21日
- ・狩野玉圓永信・狩野春貞房信・狩野董川中信・狩野永恵立信筆「四季山水花鳥図（春景富士図ほか）」四幅（もと十幅のうち）の調査（将軍徳川家茂からプロイセン国王ヴィルヘルム1世への外交贈答品）於ランゲン財団（ドイツ・デュセルドルフ郊外） 2024年6月24日
- ・狩野董川中信筆「賀茂競馬図屏風」ほかの調査（将軍徳川家茂からオランダ国王ウィレム3世への外交贈答品）於国立ライデン世界博物館（オランダ・ライデン） 2024年6月25・26日
- ・「富士山図蒔絵キャビネット（洋筆筥）」の調査 於ウォレス・コレクション（イギリス・ロンドン） 2024年6月27日
- ・板谷桂意広春・住吉内記弘貫・狩野永恵立信・狩野探原守経筆「富士花鳥図衝立」（もと掛幅十幅のなかの四幅）の調査（将軍徳川家茂からイギリス女王ヴィクトリアへの外交贈答品）於ウィンザー城（ロイヤル・コレクション・トラスト管理／イギリス・ウィンザー） 2024年6月28日

○小林 淳（こばやし まこと）教授

1 著書（編著・単著）なし

2 論文

- ・2024年日本第四紀学会論文賞「伊豆諸島北部、利島における更新世末期の流紋岩質テフラの層序」（高橋尚志・青木かおり・村田昌則・小林 淳・鈴木毅彦：第四紀研究、61-3、pp.87-107. 2022年）

3 報告書等

- ・「須山口・御殿場口登山道の地形・地質状況」（静岡県富士山世界遺産センター・御殿場市・裾野市：『富士山巡礼路報告書 須山口登山道・御殿場口登山道』. 2024年3月）〈部分執筆〉

4 その他の執筆

- ・「恐山火山」（地学団体研究会編：『最新 地学事典』 pp.206、平凡社、2024年3月）〈部分執筆〉
- ・『10万年の噴火史からひもとく 富士山』（曾布川善一著、山と溪谷社、2024年6月）〈部分監修〉
- ・「富士山噴火の痕跡を巡る（その4）—裾野溶岩流：景ヶ島溪谷 屏風岩の柱状節理—」（富士山世界遺産コラム（Vol. 27）、静岡県富士山世界遺産センター. 2024年8月）
- ・「富士山噴火の痕跡を巡る（その5）—富士相模川泥流：富士山北麓で発生した噴火が引き起こした大規模火山泥流—」（富士山世界遺産コラム（Vol. 33）、静岡県富士山世界遺産センター. 2025年2月）
- ・「富士山信仰の拠点となる湧水—湧玉池が育む豊かな生態系—」（静岡県富士山世界遺産センター編、富士山学、5、pp.56、2025年3月）
- ・「湧玉池湧水をつくった富士山噴火—定点モニタリングからみえる地下水の道のり—」（静岡県富士山世界遺産センター編、富士山学、5、pp.57-68、2025年3月）

5 学会講演 なし

6 一般講演

- ・2024年5月21日「富士山の噴火と火山防災—ハザードマップから噴火災害を理解する—」〔静岡市清水老人憩の家清開きらく荘〕
- ・2024年5月31日「富士山の噴火と火山防災—ハザードマップから読み方：警戒・避難のあり方—」〔静岡理工科大学星陵高等学校〕
- ・2024年6月12日「富士山の噴火と火山防災—ハザードマップから噴火災害を理解する—」〔静岡市清水区岡生涯学習交流館〕
- ・2024年6月20日「ハザードマップから噴火災害を理解する」〔静岡理工科大学星陵中学校〕
- ・2024年7月7日「富士山に刻まれた噴火の痕跡を地形から読み解く—地形解析・判読手法の歴史とそこから分かる噴火の推移—」〔富士山の自然を守る会（富士宮市総合福祉会館）〕
- ・2024年7月17日「富士山の噴火と火山防災—富士山の生い立ちを知ることが、その将来を知ることにつながる—」〔裾野市立富岡第一小学校〕
- ・2024年7月27日「富士山の活火山を比較してみよう—静岡の大地の成り立ちと富士山の噴火史—」〔静岡市用宗老人福祉センター〕
- ・2024年5月15日「富士山の噴火史と火山防災—富士山の生い立ちを知ることが、その将来を知ることにつながる—」〔磐田市見付交流センター〕
- ・2024年10月3日「縄文時代の富士山噴火—10万年間の富士山の生い立ちからみる—」（明治大学博

物館友の会〔静岡県富士山世界遺産センター〕)

- ・2025年1月14日「富士山の噴火と火山防災―富士山の生い立ちを知ることが、その将来を知ることにつながる―」〔富士宮市立西富士中学校〕

7 授業 なし

8 社会的活動

(1) 委員・役員

- ・山梨県・静岡県・神奈川県：富士山火山防災対策協議会 構成員（火山専門家）
- ・防災科学技術研究所：火山研究運営委員会データ利活用推進タスクフォース降灰チーム 委員
- ・富士宮市：富士宮市地下水保全対策会議委員

(2) 非常勤講師・客員教員等

- ・静岡大学防災総合センター 客員教授
- ・東京都立大学東京都市環境学部 客員教授

(3) 査読

- ・歴史地震研究会

(4) 学術交流・研究会の開催 なし

(5) 他施設・団体への協力と県民からの問い合わせ対応

- ・2024年3月16日～5月12日 みほしるべ企画展「富士山と三保松原の生き物」〔静岡市三保松原文化創造センター〕〈展示協力〉
- ・2024年4月27日～12月22日 2024年度企画展「富士山をはぎ取る―地層が語る3000年の物語」〔山梨県富士山科学研究所〕〈展示協力〉
- ・2024年6月22日 2024年度静岡大学東部市民講座「富士山の噴火と火山防災―ハザードマップから見える警戒・避難のあり方―」〔静岡大学（プラサヴェルデ）〕〈講師〉
- ・2024年8月7日 「富士山の噴火史研究とその成果に基づくハザードマップ・防災計画の改定」、静岡県教育研究会理科教育研究部夏季研究大会〔富士市交流プラザ〕〈記念講演〉
- ・2024年9月29日「富士山水ヶ塚・太郎坊フィールドワーク」〔一般団体〕〈講師〉
- ・2024年11月1日～7日 出張展示「富士山信仰の拠点となる湧水―湧玉池が育む豊かな生態系―」〔富士宮市役所〕〈展示協力〉
- ・2024年12月7日 藤枝市民大学一般教養コース（地域学講座）「私たちの世界遺産「富士山学」―藤枝・静岡の大地の成り立ちと噴火の影響―」（静岡産業大学藤枝キャンパス）〕〈講師〉
- ・2025年1月21日「富士山三島溶岩・伊豆ジオパーク巡検」〔富士山の自然を守る会〕〈講師〉
- ・2025年1月23日～2月5日 火山企画展「東部の火山と防災」〔東部地域局〕〈展示協力〉
- ・2025年2月8日・15日・22日 防災まちあるきイベント「ぶらり富士山防災さんぽ」〔静岡県危機管理部他〕〈講師〉
- ・2025年2月19日「富士山の噴火と火山防災―富士山の生い立ちを知ることが、その将来を知ることにつながる―」〔千葉県市川市民正委員児童委員協議会（富士川ふれあいホール）〕〈講師〉
- ・2025年2月26日～3月11日 火山企画展「東部の火山と防災」〔熱海総合庁舎〕〈展示協力〉
- ・その他、適宜対応

9 テレビ・ラジオ・新聞等への出演

- ・2024年4月23日 NHK 静岡「たっぷり静岡」：みんなで防災―県内各地の防災施設―

- ・2024年7月2日 SBSテレビ「LIVEしずおか」：わたしの防災 富士山の噴火にどう備えるか—富士市 富士山火山防災マップ—
- ・2024年7月3日 静岡放送（SBS）「Yahoo!ニュース」：パニックになる前に…「いつ噴火してもおかしくない山」
- ・2024年7月14日 岳南朝日：富士山の自然を守る会 噴火の痕跡を読み解き—小林教授が講演—
- ・2024年7月17日 NHK 静岡：浅間大社の湧玉池 歴史などを紹介する企画展
- ・2024年7月24日 毎日新聞：過去から未来へ 湧水と富士 信仰要所 多様な生物育む—富士宮・県世界遺産センター企画展—
- ・2024年8月5日 ラジオエフ「ミュージアムリンク」：企画展の紹介
- ・2024年8月5日 テレビ朝日：旅好き1万人&旅のプロが選ぶ！涼しい観光名所総選挙
- ・2024年8月17日 富士ニュース：湧玉池の特徴と恵み—世界遺産センターで企画展—
- ・2024年9月2日 ラジオエフ「ミュージアムリンク」：企画展の紹介
- ・2025年2月11日 SBSテレビ「LIVEしずおか」：わたしの防災 富士山の噴火 歩いて学ぶ講座—実験とフィールドワークで体感—
- ・2025年2月14日 読売新聞：富士山噴火学習「体験式」で
- ・2025年2月23日 静岡新聞：富士山噴火の痕跡たどる 親子ら、富士宮市街地散策
- ・2025年3月11日 NHK 静岡「たっぷり静岡」：みんなで防災—県内各地の防災施設—

10 海外学術調査 なし

○大高 康正（おおたか やすまさ）教授

1 著書（編著・単著） なし

2 論文 なし

3 報告書等

- ・2025年3月『富士山巡礼路調査報告書 須山口登山道・御殿場口登山道』（静岡県富士山世界遺産センター、編集・分担執筆）

4 その他の執筆

- ・2024年3月（奥付は昨年度刊行）「書評と紹介 秋道智彌著『霊峰の文化史—世界遺産・富士山と世界の山岳信仰』」：日本山岳修験学会編『山岳修験』73号
- ・2024年5月「九十九コレクション「富士浅間」扁額の由来」（富士山世界遺産コラム〈Vol.24〉：静岡県富士山世界遺産センターHP）
- ・2024年11月「「高田富士」以前に存在した静岡県内の富士塚」（富士山世界遺産コラム〈Vol.30〉：静岡県富士山世界遺産センターHP）
- ・2024年11月「東海以西の富士山信仰と参詣曼荼羅」：山田邦明編『東海の中世史 5 信長・家康と激動の東海』コラム2（吉川弘文館）
- ・2024年11月「フレデリック・スタールと九十九コレクション」：日本山岳修験学会第44回徳島学術大会実行委員会編『日本山岳修験学会徳島学術大会発表要旨・資料集』

5 学会講演

- ・2024年6月26日（水）：富士市民歴史講座「紫式部が生きた時代の文学と社会」第4回：「富士山南

麓の赫夜姫（かぐやひめ）の物語～富士山の縁起（えんぎ）を知る」

- ・2024年8月17日（土）：日本三霊山連携事業富山県「立山博物館」企画展「立山・白山・富士山を巡る一立山衆徒と三禅定」特別講演会「東海地域の白山信仰・富士山信仰からみた三禅定」：「富士参詣曼荼羅松栄寺本と三禅定」
- ・2024年11月17日（日）：日本山岳修験学会徳島学術大会研究報告：「フレデリック・スタールと九十九コレクション」
- ・2025年2月22日（土）：静岡県埋蔵文化財センター主催「山の洲文化財交流展」関連イベント記念講演会：「中世の寺院と「山」との関わり～信仰と行事から紐解く～」

6 一般講演

- ・2024年4月15日（月）国立中央青少年交流の家：「富士山の歴史を学ぶ」
- ・2024年4月16日（火）静岡市鯨ヶ池老人福祉センター：「富士山の縁起を知る～赫夜姫（かぐやひめ）」
- ・2024年6月20日（木）静岡市折戸生涯学習交流館：「富士山の縁起を知る～赫夜姫」
- ・2024年7月26日（金）藤枝市青島南地区交流センター：「富士山信仰を歴史から学ぶ」
- ・2024年9月6日（金）富士宮市立東小学校：「富士山信仰を歴史から学ぶ」
- ・2024年9月12日（木）、17日（火）、19日（木）静岡市葵生涯学習センター：「富士山の「合目」のハナシ」
- ・2024年11月15日（金）静岡州市町教育委員会連絡協議会：「富士山の参詣曼荼羅の絵解き」
- ・2024年11月24日（日）：日本三霊山連携事業報恩講白山食談義バスツアー（白山ろく民俗資料館）：「富士山の縁起を知る～赫夜姫」
- ・2025年1月29日（水）焼津市港地域交流センター：「富士山の縁起を知る～赫夜姫」

7 授業

- ・2024年10月8日（火）静岡文化芸術大学「静岡学」講座：「世界遺産富士山と富士山信仰」

8 社会的活動

（1）委員・役員

- ・日本山岳修験学会理事
- ・富士市文化財保護審議会審議委員
- ・富士宮市史（中世）執筆員

（2）非常勤講師・客員教員等 なし

（3）査読 なし

（4）学術交流・研究会の開催

- ・2021年4月～2026年3月：日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究（B）「両部神道の伝播と継承に関する総合的研究」（代表：伊藤聡）研究分担者

（5）他施設・団体への協力と県民からの問い合わせ対応

- ・適宜対応

9 テレビ・ラジオ・新聞等への出演

- ・2024年4月29日（月）NHK静岡富士支局「富士山の「合目」のハナシ」取材対応、出演
- ・2024年5月6日（月）・6月3日（月）ラジオエフ『Link』ミュージアムリンク取材、出演
- ・2025年1月17日（土）TOKAIケーブルネットワーク製作「壮観劇場 富士山 水と信仰」取材対応、出演

- ・2025年1月25日（土）SBS静岡放送「冠ザコシ」取材対応、出演
その他、適宜対応

10 海外学術調査 なし

○井上 卓哉（いのうえ たくや）准教授

1 著書（編著・単著） なし

2 論文 なし

3 報告書等

- ・2025年3月「御殿場口登山道の民俗」（『富士山巡礼路調査報告書 御殿場口・須山口登山道』）

4 その他の執筆

- ・2024年6月「富士山に挑んだ外国人列伝①～エドワード・H・ハウス～」(富士山世界遺産コラム〈Vol.25〉：静岡県富士山世界遺産センターHP)
- ・2024年10月「富士山の古写真を読み解き、展示する」(『REKIHAKU』、国立歴史民俗博物館)
- ・2024年12月「山に酔う－富士山における高山病(高度障害)の民俗」(富士山世界遺産コラム〈Vol.31〉：静岡県富士山世界遺産センターHP)
- ・2025年3月「俵札をめぐる信仰活動の一形態としての伊勢参詣～新潟県妻有地域に残された道中記から～」(『史苑』85巻2号、立教大学史学会)
- ・2025年3月「〈学術研究奨励事業報告〉秋山郷におけるトチノミ利用と枅林に関する民俗学的研究」(『苗場山麓ジオパーク 研究集録』第7号、苗場山麓ジオパーク振興協議会)
- ・2025年3月「静岡県内の木地師に関連する史跡と資料について」(『木地師調査報告書』、滋賀県東近江市)

5 学会講演

- ・2024年6月15日（土）：立教史学会：「新潟県妻有地域の守札（俵札）からみる信仰活動の変遷」
- ・2024年10月27日（日）：日本民俗学会第76回例会：「富士山御殿場口の旅館宿帳からみる大正・昭和初期の登山者の動向」
- ・2024年11月17日（日）：日本山岳修験学会徳島学術大会：「GISを活用した近世の富士山導者帳の可視化の試み」

6 一般講演

- ・2024年5月23日（木）：静岡市藁科生涯学習センター：「富士山のふもとで生きる」
- ・2024年6月21日（金）：富士宮市富士根南中学校：「富士山のふもとで生きる」
- ・2024年6月22日（土）：芝川郷土史研究会大会：「日本の象徴 富士山～ビジュアル・メディアにみる富士山の姿」
- ・2024年6月27日（木）：富士宮市北山中学校：「日本の象徴 富士山～ビジュアル・メディアにみる富士山の姿」
- ・2024年7月4日（木）：静岡市西部生涯学習センター：「富士山のふもとで生きる」
- ・2024年8月22日（木）：静岡県神職協議会：「日本の象徴 富士山～ビジュアル・メディアにみる富士山の姿」
- ・2024年10月10日（木）：浜松市南部協働センター：「日本の象徴 富士山～ビジュアル・メディアに

みる富士山の姿」

- ・2024年11月9日（土）：富士宮市西富士図書館：「日本の象徴としての富士山～ビジュアル・メディアにみる富士山の姿」
- ・2024年11月23日（土）：富士市立中央図書館：「江戸時代の富士登山～西と東から挑んだ富士山の姿」
- ・2024年12月22日（日）：トークイベントin富士山世界遺産センター（PODCAST番組「行きたくなる世界遺産！」の公開収録イベント）：「世界遺産としての富士山」
- ・2025年1月25日（土）：静岡市用宗老人福祉センター：「富士山のふもとで生きる」

7 授業

- ・2024年4月24日（水）静岡県立大学「歴史から読み解く静岡学」講座：「江戸時代の富士登山～西と東から挑んだ富士山の姿」
- ・2024年8月4日（土）静岡大学「富士山に行こう！静岡が世界に誇る自然・芸術・産業を学ぶ」サマープログラム：「日本の象徴としての富士山～ビジュアル・メディアにみる富士山の姿」

8 社会的活動

（1）委員・役員

- ・静岡県民俗学会理事
- ・日本山岳修験学会理事
- ・東近江市森の文化資源調査（木地師分野）調査員
- ・富士宮市史（民俗）執筆員

（2）非常勤講師・客員教員等 なし

（3）査読 なし

（4）学術交流・研究会の開催 なし

（5）他施設・団体への協力と県民からの問い合わせ対応

- ・適宜対応

9 テレビ・ラジオ・新聞等への出演

- ・『サライ』7月号（小学館発行）の「外国人が愛したニッポン」特集への取材対応ならびに編集協力
- ・『たっぷり静岡』12月18日放送（NHK静岡）内の「しずL O V E」への取材対応ならびに出演
- ・静岡新聞12月22日号『県内知りたい深めたい社会人講座』への取材対応
- その他、適宜対応

10 海外学術調査 なし

○青木 慎一（あおき しんいち）准教授

1 著書（編著・単著）

- ・2024年10月『源氏絵研究の最前線』勉誠社（共著：論文「幻の「源氏物語絵巻」の詞書本文について―賢木第一巻の検討から」を担当）

2 論文

- ・2025年3月「静岡県富士山世界遺産センター蔵「竹取物語」（奈良絵本断簡）について―絵画化の特徴を中心に―」（『富士山学』第5号、雄山閣）

3 報告書等

- ・2024年6月「高等学校国語教科書における物語絵の活用法—古典探究に採録される『源氏物語』「葵」・「賢木」巻を例として—」（『令和4年度 公益財団法人 教科書研究センター 若手研究者に対する教科書研究助成事業 研究成果報告書集』、公益財団法人教科書研究センター）

4 その他の執筆

- ・2024年7月「『かぐや姫の物語』と『竹取物語』」（富士山世界遺産コラムVol.26、静岡県富士山世界遺産センター）
- ・2024年11月「静岡県富士山世界遺産センターより」（『立教大学日文ニュース』第29号、立教大学日本文学会）
- ・2025年1月「江戸時代に作られた竹取物語絵の世界—富士山の絵画化との関連から—」（富士山世界遺産コラムVol.32、静岡県富士山世界遺産センター）
- ・2025年3月「書評 倉田実著『源氏物語絵巻の世界 図鑑 モノから読み解く王朝絵巻 第一巻』（『日本文学』第74巻第3号、日本文学協会）

5 学会講演

- ・2024年9月28日（土）：愛知県立芸術大学、「幻の「源氏物語絵巻」の詞書本文の傾向と制作背景—『源氏物語』写本の異同との比較から」（源氏文化科研キックオフ集会）

6 一般講演

- ・2024年12月13日（金）：日本大学国際関係学部、「平安時代のことばと江戸時代の解釈—富士山をめぐる『竹取物語』・『伊勢物語』 享受を中心に—」（日本大学国際関係学部国際教養学科学術講演会）
- ・2025年1月19日（日）：富士山世界遺産センター、「富士山と平安文学」（富士山世界遺産センター公開講座）
- ・2025年3月1日（土）：静岡理工科大学、「平安文学から見る富士山」（世界遺産県民講座）

7 授業 なし

8 社会的活動

（1）委員・役員

- ・日本文学協会委員
- ・立教大学日本学研究所特任研究員

（2）非常勤講師・客員教員等 なし

（3）査読 なし

（4）学術交流・研究会の開催

- ・2024年12月15日（日）：愛知県立芸術大学、第13回源氏絵データベース研究会「装飾法華経と源氏物語」（科学研究費基盤研究（A）「源氏文化ポータルを共有・活用した源氏絵の俯瞰的・創発的研究」）
- ・2025年3月22日（土）：早稲田大学、第14回源氏絵データベース研究会「岩佐又兵衛の源氏絵」（科学研究費基盤研究（A）「源氏文化ポータルを共有・活用した源氏絵の俯瞰的・創発的研究」）

（5）他施設・団体への協力と県民からの問い合わせ対応

- ・適宜対応

9 テレビ・ラジオ・新聞等への出演 なし

10 海外学術調査 なし

● 2-4-3 富士山学

1 「富士山学」

「富士山学」とは、歴史学、民俗学といった信仰、絵画、文学といった芸術、さらには文化遺産学、火山学など、人文科学および自然科学の諸分野における富士山に関する研究を学際的に取り扱い、富士山の持つ普遍的価値をより深く知ることを目指す学問領域を指す。

「富士山学」の研究成果を広く一般に周知することを目的に、2020年度より『富士山学』という刊行物にまとめ、各年度ごとに研究員より編集担当を定めて特集号を企画する。

2 2024年度『富士山学』第5号の刊行

今号では人文学と自然史の論考を収録し、富士山に関する文学と絵の論考を組み合わせ、多角的に富士山の表象を捉えるとともに、湧玉池に関する4名の専門家による解説によって世界遺産富士山がもたらす多様な恵みを紹介した。

『富士山学』第5号（雄山閣、2025年3月刊行）目次

【特集「文化・自然から見る富士山」】

[テーマ1 文学と絵と富士山と]

- ・『竹取物語』と諸伝承にみる「富士の山」
(小嶋菜温子：立教大学名誉教授)
- ・「静岡県富士山世界遺産センター蔵「竹取物語」(奈良絵本断簡)について」
(青木慎一：静岡県富士山世界遺産センター)
- ・「平安文学における富士山」
(室城秀之：白百合女子大学名誉教授)
- ・「富士山からみる古典文学と絵」
(高橋亨：名古屋大学名誉教授)
- ・「将軍と天皇の富士山」
(松島仁：静岡県富士山世界遺産センター)
- ・「二〇二一～二二年における俳諧・俳句の富士山」
(久富木原玲：愛知県立大学名誉教授)

[テーマ2 富士山信仰の拠点となる湧水 ―湧玉池が育む豊かな生態系―]

- ・「湧玉池湧水をつくった富士山噴火」
(小林淳：静岡県富士山世界遺産センター)
- ・「特別天然記念物「湧玉池」の歴史」
(高橋菜月：富士宮市教育委員会文化課)
- ・「湧玉池の水草相」
(早川宗志：ふじのくに地球環境史ミュージアム、栗山由佳子)
- ・「湧玉池の底生動物・藻類」
(鳥居高明：いであ株式会社、吉成暁：いであ株式会社)

● 2-4-4 資料収集

1 資料収集の方針

静岡県富士山世界遺産センターでは、設置目的である富士山の価値の後世継承、富士山学の研究、情報発信拠点としての役割を果たすため、富士山に関する資料を以下の視点から収集している。

- (1) 「信仰の対象」と「芸術の源泉」としての普遍的な価値を証明する資料を収集する。
- (2) 貴重な文化財の滅失や散逸を防ぐとともに、富士山学の研究の充実や教育の普及、集客力の強化に活用する資料を収集する。

2 2024年度収集作品

2024年度はセンターの収蔵方針に基づき、厳正かつ緻密な調査、さらに2023年7月25日の収集専門委員会議を経て下記10件（購入9件、寄贈1件）の資料を収集した。各作品の概要と収集の理由は下記の通りである。

○購入資料一覧

No.	ジャンル	作者	資料名
1	版画	二代歌川廣重	東海道
2	版画	三代歌川豊国 (初代国貞) ほか	御上洛東海道
3	典籍	ディキンズ	竹取翁の物語：10世紀に書かれた日本最古の物語
4	典籍	ミラー／小林永濯 ／長谷川武次郎	輝ける姫君（かぐや姫）：竹取翁の娘
5	典籍	モンタヌス	オランダ東インド会社遣日使節紀行
6	典籍	ヴィルマン	日本旅行記
7	典籍	ケンペル	日本誌
8	典籍	フィッセル	日本の知識への寄与
9	絵画	中村慈郎（治郎）	平塚鳥瞰図

・「東海道」 二代歌川廣重 江戸時代末期（文久3年〈1863〉頃）

【作品概要と収集理由】

二代歌川廣重は初代歌川廣重の養子。慶応元年頃、師家を離縁された後、「立祥」と号す。温和で抒情的な初代の作風をよく継承する。

『御上洛東海道』で中心的な役割を担った二代歌川広重が一人で手掛ける東海道シリーズ。文久3年(1863)の徳川家茂上洛に取材する。

「廣重画」の款記をとまうが、うち14枚については「立祥画」落款で慶応3年(1867)12月の年月改印をとまう。もっともボストン美術館所蔵の同シリーズでは、「立祥画」落款の図に改印はなく、のちに画冊に仕立てられた折に捺された可能性も考えられる。

同揃物では、「日本橋」「川崎」「平塚」「沼津」「原」「吉原」「蒲原」「由井(由比)」「江尻」「金谷」の10図に富士山が添えられる。

『御上洛東海道』に図様を通わせることもある同揃物では、「日本橋」や「油井」をはじめ、ときに初代歌川広重以来の構図を踏襲する。

「江尻」では、御殿内から火灯窓越しに富士山を遠望する徳川家茂が、派手な貴人姿で描写され、家茂の身体と富士山のイメージの一体化が可視化される。

センターが収集を継続している徳川家茂上洛東海道物の一つ。本揃物を収蔵することで、江戸時代から明治の富士山を扱った錦絵を“線”としてつなぐことが可能となる。また家茂の上洛と明治天皇の東幸を扱った錦絵を一体的に収集することにより、幕末と明治の政治史を連続相のもとに扱う近年の歴史学の傾向についても美術史方面からアプローチすることができる。

・「御上洛東海道」 三代歌川豊国(初代国貞)ほか 江戸時代末期(文久3〈1863〉頃)

【作品概要と収集理由】

三代歌川豊国(初代国貞)は幕末期歌川派の総帥で、役者絵に秀でる。

二代歌川広重は初代の後継で、初代の画風を祖述した東海道物や江戸風景を残す。

歌川貞秀は鳥瞰図的構成によるパノラミックな風景画を得意とした画家で、横浜絵や富士登山図に秀でる。

そのほか河鍋暁斎、落合芳幾、月岡芳年、豊原国周は明治期に活躍し、近世から近代へと変貌をとげていく浮世絵や日本画界を牽引する。

文久3年(1863)2月から6月に行われた14代将軍徳川家茂上洛に取材し、同年4月から7月にかけて板行された揃物である。229年ぶりの将軍上洛という未曾有の事件に当て込んだ通称『御上洛東海道』は、総計160枚超の大規模なシリーズとして企画され、担当絵師は16名、版元も25を数える。

『御上洛東海道』のなかで富士山が描かれているのは、「東都数寄屋河岸」(二代広重画)、「江戸尾張丁」(芳宗画)、「鈴ヶ森」(二代広重画)、「川崎」(二代広重画)、「神奈川浦島古跡」(暁斎画)、「由比ヶ浜」(芳年画)、「四ッ谷」(国綱画)、「平塚」(二代広重画)、「沼津」(三代豊国画)、「原」(三代豊国画)、「吉原」(芳艷画)、「柏原左不二」(二代広重画)、「蒲原」(二代広重画)、「油井」(二代広重画)、「清見寺」(芳艷画)、「薩陀峠」(芳盛画)、「久能山」(国綱画)、「府中」(芳盛画)、「荒井」(三代豊国画)の19図である。

江戸市中を描いた「東都数寄屋河岸」(駕籠)と「江戸尾張丁」(騎乗)では、家茂一行の行く手に富士山をひときわ大きく表し、将軍の身体と富士山の一体化が可視化される。「清見寺」においても富士山と家茂を対角線上に配し、両者の一体化が強調される。

「由比ヶ浜」では、極端な近大遠小や対角線を生かした構図のなか、画面奥から手前に群れ飛ぶ丹頂鶴や浜に打ちつける波、臣下たちの所作など、芳年らしい動感あふれる画風が展開される。

「沼津」では、『伊賀越道中双六』沼津の段の登場人物である呉服屋重兵衛、平作、お米を役者似顔

絵に倣いつつ近景に配し、背後に上洛の行列を描く。

源頼朝になぞらえた家茂とその一行が難所を越える様を描く「薩陀峠」では、富士山と旭日が合わせ描かれるが、この組合せは江戸時代後期あたりから頻出するようになり、近代になると“国体”としての天皇を暗喩する構図として様式化される。

「府中（静岡）」では、家康ゆかりの駿府城そして金扇馬標が富士山に重ねられる。画中には、頼朝に擬して赤い傘を差し掛けられる烏帽子に狩衣姿の家茂も描写される。

本揃物を収蔵することで、江戸時代から明治の富士山を扱った錦絵を“線”としてつなぐことが可能となる。また家茂の上洛と明治天皇の東幸を扱った錦絵を一体的に収集することにより、幕末と明治の政治史を連続相のもとに扱う近年の歴史学の傾向についても美術史方面からアプローチすることができる。

そのうえでそれら諸作において富士山が歴史的に担ってきた象徴的な意味を考究するならば、センターが目標とする学際的な総合研究“富士山学”に寄与することもできる。

・「竹取翁の物語：10世紀に書かれた日本最古の物語」 ディキンズ 1888年

【作品概要と収集理由】

ディキンズは幕末から明治初期にかけての西洋における日本研究者。

本文テキストを中心にしつつ、下段欄外にディキンズによる注釈が付された『竹取物語』の英訳本であるが、ローマ字綴りの翻刻や日本語文法の概説も収録されており、翻訳作品としてだけでなく、作品世界の背景にある歴史や文化の解説までも含む総合的な日本研究書となっている。

本書は装丁や折り込み図にも趣向を凝らすなど、書物という形態そのものを最大限に活かして『竹取物語』の世界を読者に伝えようとしており、刊行当時の海外における『竹取物語』の文学的、歴史的評価を伝える資料として極めて重要であるほか、折り込み図に収録される富士山図は視覚的表象としての富士山の研究にも大いに資する資料である。

また、作者ディキンズ自身によると思われる献辞文が記されており、彼が非常に親しい関係にあった人物に直接贈ったという特別な来歴を有する点も注目される。

静岡県富士山世界遺産センター資料収集方針の「2 収集方針」の（1）収集の視点「イ 富士山の多様な価値に関連する資料を収集する。」、（2）収集の目的「ア 散逸・滅失等のおそれのある貴重な文化財の保護」、「イ 富士山学の体系化のための調査研究」・「ウ 企画展における情報発信」に合致する。静岡県富士山世界遺産センター資料収集方針の「3 資料区分」の「（1）絵画、彫刻、工芸、書跡、典籍、古文書、その他の有形の文化的所産で歴史的または芸術上価値の高いもの並びに考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史資料」に合致する。

・「輝ける姫君（かぐや姫）：竹取翁の娘」 ミラー／小林永濯／長谷川武次郎 1889年

【作品概要と収集理由】

『竹取物語』『かぐや姫』などの名称で呼ばれる日本のむかし話を子ども向けの平易な英語に翻訳した作品。ミラーによる分かりやすい英訳文が小林永濯の魅力的な挿絵と合わせて綴られており、日本のことを知らない子どもでも『竹取物語』の幻想的な世界観を存分に楽しめる構成となっている。

本書は平紙本であるが、ちりめん本としても同年の1889年に刊行されている。ただし、かぐや姫の昇天と富士山が描かれる表紙は平紙本のみで、ちりめん本と異なっており、大変珍しい版であること、

非常に状態が良いことから、特に貴重である。そして、表紙絵としての富士山の図像、物語中にも富士山図が採られることから、視覚的表象としての富士山研究の資料としても活用が期待できる。

静岡県富士山世界遺産センター資料収集方針の「2 収集方針」の（1）収集の視点「イ 富士山の多様な価値に関連する資料を収集する。」、（2）収集の目的「ア 散逸・滅失等のおそれのある貴重な文化財の保護」、「イ 富士山学の体系化のための調査研究」・「ウ 企画展における情報発信」に合致する。

静岡県富士山世界遺産センター資料収集方針の「3 資料区分」の「（1）絵画、彫刻、工芸、書跡、典籍、古文書、その他の有形の文化的所産で歴史的または芸術上価値の高いもの並びに考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史資料」に合致する。

・「オランダ東インド会社遣日使節紀行」 モンタヌス 1669年

【作品概要と収集理由】

モンタヌスはオランダの宣教師、歴史学者。世界各地の地理や歴史についての書籍を多く著した。

日本に滞在したオランダ東インド会社の関係者の日記などの史料を駆使して刊行された、ヨーロッパにおける最初の本格的な総合的日本研究の文献。著者本人の来日実績はないものの、参照した文献の信頼性と独自性は非常に高いとされる。多数の銅版画を収録していることでも知られた作品で、その画像は発行以降様々な書籍に転載され、幕末の時期に至るまでの非常に長い期間にわたって、日本のビジュアルイメージとして流布し続けている。

本書は、1669年にアムステルダムで発行された初版本で、刊行当時の想定が保持された優品である。なお、1649年から翌年にかけて江戸に参府したアンドレアス・フリシウスの日記部分に、富士山の記述が見られ、現地の人々からの聞き取りとして富士山で活動する山伏についても記されるとともに、山伏の姿を描いた銅版画も所収されている。

静岡県富士山世界遺産センター資料収集方針の「2 収集方針」の（1）収集の視点「イ 富士山の多様な価値に関連する資料を収集する。」、（2）収集の目的「ア 散逸・滅失等のおそれのある貴重な文化財の保護」、「イ 富士山学の体系化のための調査研究」・「ウ 企画展における情報発信」に合致する。

静岡県富士山世界遺産センター資料収集方針の「3 資料区分」の「（1）絵画、彫刻、工芸、書跡、典籍、古文書、その他の有形の文化的所産で歴史的または芸術上価値の高いもの並びに考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史資料」に合致する。

・「日本旅行記」 ヴィルマン 1674年（第2版）

【作品概要と収集理由】

ヴィルマンはスウェーデンの航海士・著述家。

1651年にオランダ東インド会社社員として来日した著者による日記を旅行記としてまとめて1667年に発行されたもの。

1651年末からの江戸参府の記述が収録されており、その中で富士山の麓を通過した際に見聞したことが記される。富士山を実見した西洋人による記述が出版された事例としては最初期のものとなる。また、富士山の大きさをテネリフェ島の休火山ピコ・デ・タイデと比較している。このように両山を比較するという記述方法は、後年の西洋人による文献の典型例となる。

この文献は発行部数が少なく、初版・二版ともに稀覯本として知られる。

静岡県富士山世界遺産センター資料収集方針の「2 収集方針」の（1）収集の視点「イ 富士山の

多様な価値に関連する資料を収集する。」、(2) 収集の目的「ア 散逸・滅失等のおそれのある貴重な文化財の保護」、「イ 富士山学の体系化のための調査研究」、「ウ 企画展における情報発信」に合致する。静岡県富士山世界遺産センター資料収集方針の「3 資料区分」の「(1) 絵画、彫刻、工芸、書跡、典籍、古文書、その他の有形の文化的所産で歴史的または芸術上価値の高いもの並びに考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史資料」に合致する。

・「日本誌」 ケンペル 1728年

【作品概要と収集理由】

ケンペルはドイツ出身の医師・博物学者。

1690年から1692年にかけて、オランダ東インド会社の医師として来日した著者による本格的な日本研究の成果をまとめたもので、日本の歴史・地理・文化・風習、経済等多様な面から当時の日本を分析したもの。

本書は、ケンペル没後にドイツ語で記された遺稿や資料群がイギリスへと渡り、それらを用いて初めてロンドンで刊行された初版本。

また、富士山の記述が多いことでも知られており、富士山を描いた地図は良く知られる。英語版は度々再版されて広く流布するとともに、多くの言語で翻訳・出版され、18世紀半ば以降の西洋における日本観を決定づけたといえる。

本書は図版等を完全に備えており、非常に良い状態が保たれている。

静岡県富士山世界遺産センター資料収集方針の「2 収集方針」の(1) 収集の視点「イ 富士山の多様な価値に関連する資料を収集する。」、(2) 収集の目的「ア 散逸・滅失等のおそれのある貴重な文化財の保護」、「イ 富士山学の体系化のための調査研究」、「ウ 企画展における情報発信」に合致する。

静岡県富士山世界遺産センター資料収集方針の「3 資料区分」の「(1) 絵画、彫刻、工芸、書跡、典籍、古文書、その他の有形の文化的所産で歴史的または芸術上価値の高いもの並びに考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史資料」に合致する。

・「日本の知識への寄与」 フィッセル 1833年

【作品概要と収集理由】

1820年から1829年にかけて長崎出島のオランダ商館の職員として日本に滞在した著者による日本研究書。先人の日本研究を参照しつつも、筆者自身の長期にわたる日本滞在経験に基づいた記述となっており、その学術的価値が高く評価されている。

また、本書には多数の図版が収録されており、当時の日本の絵師による作品に倣ったものと考えられるものも含まれており、後年のジャポニズムの動きを先取ったものともいえる。

富士山についての言及とともに、富士山を背景とする日本地図の図版も収録されており、日本を象徴する山としての富士山のイメージ確立にも少なからず影響を与えたものと考えられる。

本書は、図版に彩色を施した高級版と、無彩色の通常版が存在するが、本書は彩色高級版の完本で非常に貴重なものである。

静岡県富士山世界遺産センター資料収集方針の「2 収集方針」の(1) 収集の視点「イ 富士山の多様な価値に関連する資料を収集する。」、(2) 収集の目的「ア 散逸・滅失等のおそれのある貴重な文化財の保護」、「イ 富士山学の体系化のための調査研究」、「ウ 企画展における情報発信」に合致する。

静岡県富士山世界遺産センター資料収集方針の「3 資料区分」の「(1) 絵画、彫刻、工芸、書跡、典籍、古文書、その他の有形の文化的所産で歴史的または芸術上価値の高いもの並びに考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史資料」に合致する。

・「平塚鳥瞰図」 中村慈郎（治郎） 昭和20年代

【作品概要と収集理由】

中村慈郎は、大正の広重として知られる鳥瞰図画家、吉田初三郎の高弟であり、初三郎の後継者として、画風を最も良く引き継いだとされる。

戦後に独立し、横須賀や山中湖に居を構え、富士山周辺の鳥瞰図を多く描く。

本図は富士山を背景として、平塚市街を描いた肉筆の鳥瞰図（絹本着色）。同じ構図の大型鳥瞰図が平塚市役所に遺されていることから、平塚市の依頼により描かれたものとして考えられる。

中村慈郎は、吉田初三郎の弟子のうち、その画風を最も良く引き継いだとされ、本作品もその特徴がよく示されている。また、中村治郎は、富士山周辺に居住し、富士山周辺の鳥瞰図を多く描いた画家であることから、彼の作品を比較することで、富士山周辺の観光や市街地開発の変遷を分析することが可能となる。

静岡県富士山世界遺産センター資料収集方針の「2 収集方針」の（1）収集の視点「イ 富士山の多様な価値に関連する資料を収集する。」、（2）収集の目的「ア 散逸・滅失等のおそれのある貴重な文化財の保護」、「イ 富士山学の体系化のための調査研究」・「ウ 企画展における情報発信」に合致する。

静岡県富士山世界遺産センター資料収集方針の「3 資料区分」の「(1) 絵画、彫刻、工芸、書跡、典籍、古文書、その他の有形の文化的所産で歴史的または芸術上価値の高いもの並びに考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史資料」に合致する。

○寄贈受入資料一覧

No.	ジャンル	点数	資料名
1	古文書	1点	〔三十一日之御伝〕

・〔三十一日之御伝〕（さんじゅういちにちのおつたえ） 安政3年（1856）書写

卷子：本紙部分は縦27.5×横1023.3cm

【作品概要と収集理由】

〔三十一日之御伝〕は、江戸富士講の指導者である食行身禄の富士山烏帽子岩での断食行に同行した弟子の田辺十郎右衛門（北行鏡月）が、身禄から教えを受けた内容をまとめたものである。江戸富士講の中で、特に身禄の流れを汲む講中の先達は、身禄の教えを体現する教義書として所持した。この資料は安政3年（1856）7月17日に書写されたもので、武蔵国埼玉郡今泉村（現・埼玉県羽生市今泉カ）の富士講の先達と思われる五月女氏が所持していたものである。

富士山の信仰を伝える資料のひとつであり、また武蔵国埼玉郡今泉村の江戸富士講に関するものとして、後世に継承していくべき資料として収集を行った。

3 施設・組織・予算

3-1 施設

1 建物概要

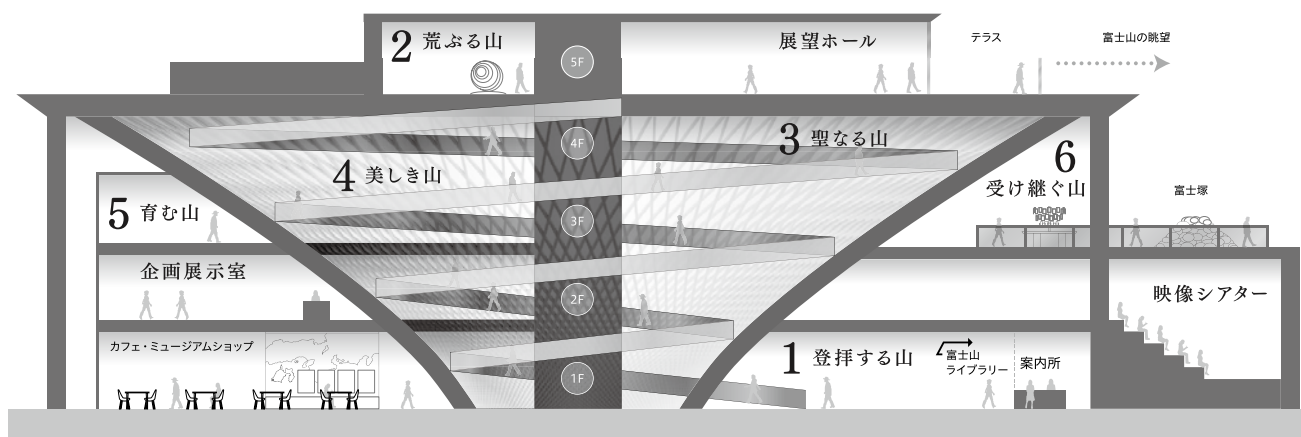
名 称	静岡県富士山世界遺産センター Mt.FUJI WORLD HERITAGE CENTRE, SHIZUOKA
敷地面積	6,086.7㎡
延床面積	3,438.45㎡
構 造	鉄骨造（5階建て）
設 計	株式会社坂茂建築設計
施 工	建 築 佐藤工業・若杉組特定建設工事共同企業体 電 気 住友・三和特定建設工事共同企業体 機 械 須賀・遠藤特定建設工事共同企業体 防音壁 株式会社若杉組 収蔵庫 金剛株式会社 外 構 佐藤工業株式会社静岡営業所 さく井 土屋産業株式会社 サイン 株式会社若杉組
展示設計・施工	株式会社丹青社
西棟左官造作・富士塚制作	挾土 秀平（職人社 秀平組）
スロープ壁面描画	島倉 二千六（アトリエ雲）

富士ヒノキの木格子の外壁を持つ建物は「逆さ富士」を表現し、前面の水盤に映り込むと「富士山」の姿が現れる。水面に映る富士山は、内部に豊富な湧水をたたえた「水の山」としての富士山を象徴的に表している。

富士山の湧水を館内に取り込み、空調熱源として利用した後、水盤に利用し、富士の水の循環を建築的にも表現している。



2 フロアマップ



この施設では、スロープを上りながら富士登山を感じ、本物の富士山に出会い、世界遺産「富士山」について学ぶ、「富士山」を満喫する体験を提供している。

展示については、「富士山の総合的、学際的、国際的な研究活動を展開していく中で、各コーナーが有機的につながりあう展示」「世界からの来館者を感化する展示」をテーマとしている。

3 施設概要

所在地 静岡県富士宮市宮町 5-12

T E L 0544-21-3776

F A X 0544-23-6800

営業時間 9:00~17:00

(7、8月は~18:00、
最終入館は閉館の30分前)

休館日 毎月第3火曜日、施設点検日

観覧料 300円(団体割引あり)

70歳以上、大学生以下、障害者等は無料(要証明)

企画展は別途料金を設定

アクセス JR身延線富士宮駅から徒歩8分

新東名高速道路新富士ICから約10分

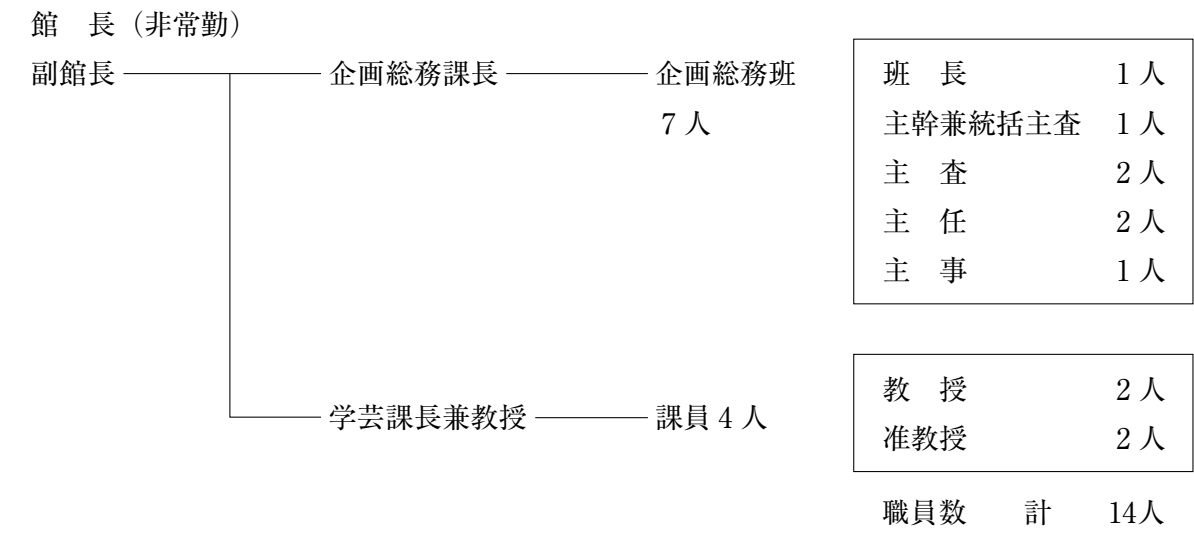
東名高速道路富士ICから約15分



3-2 組織

1 組織図・職員（2024年度）

〈組織図〉



館長	遠山 敦子 (～2024年12月31日)	(その他会計年度任用職員)
	稲葉 信子 (2025年1月1日～)	
副館長	滝 正晴	
企画総務課長	小室 勝彦	
企画総務班長	堤 年巨	
企画総務班主幹兼統括主査	美澤 綾子	
企画総務班主査	長嶋 昌和	
企画総務班主査	小川 士文	
企画総務班主任	村松 文佳	
企画総務班主任	土谷 周平	
企画総務班主事	芹澤 美緒	
学芸課長兼教授	松島 仁	
学芸課教授	小林 淳	
学芸課教授	大高 康正	
学芸課准教授	井上 卓哉	
学芸課准教授	青木 慎一	
会計年度任用職員	渡邊 敦美	
	鈴木 綾音	
	山崎 香織	

3-3 予算

1 富士山世界遺産センター管理運営事業費（2024年度）

歳出の部

（単位：千円）

項 目		予算額 (当初)	決算額	内 容
究める	調査研究	7,999	5,860	巡礼路調査、分野別研究
	資料収集	11,545	10,745	収蔵品購入
伝える・交わる	教育普及	1,139	560	世界遺産セミナー、館内講座、出前講座の実施
	展 示	36,493	48,432	常設展示の更新、企画展の開催
	情報発信	4,189	4,493	ホームページ、年報等様々な情報発信
守る	人材養成	410	77	世界遺産ガイドのスキルアップ講座
維持管理		144,257	129,653	光熱水費、接遇スタッフ、設備運転、清掃、定期点検 ほか
事 務 費		22,420	21,640	非常勤職員人件費、消耗品費、印刷費、職員旅費 ほか
歳 出 計		228,452	221,460	

歳入の部

（単位：千円）

項 目	予算額 (当初)	決算額	内 容
観覧料収入	36,683	34,025	常設展観覧料
その他収入	11,770	10,659	物品貸付料、図書売払収入等
一 般 財 源	177,999	176,776	
歳 入 計	228,452	221,460	

4 資 料

4-1 来館者数データ

2024年度月間来館者数推移

(単位：人)

年	月日	全体	観覧券発券数						
			一般	団体	小人	学生	高齢者	その他	計
2024	4月計	14,941	8,513	1,748	953	802	1,792	393	14,201
2024	5月計	17,822	9,078	1,678	3,232	568	1,844	654	17,054
2024	6月計	9,842	5,071	1,001	1,316	566	1,005	331	9,290
2024	7月計	16,912	8,097	2,012	3,388	1,167	952	546	16,162
2024	8月計	19,649	10,121	1,829	3,130	1,664	875	1,136	18,755
2024	9月計	13,269	6,775	1,634	1,766	1,071	1,094	464	12,804
2024	10月計	14,777	7,905	2,275	1,086	447	1,913	561	14,187
2024	11月計	13,735	7,841	980	1,437	755	1,655	463	13,131
2024	12月計	10,407	6,388	501	561	962	1,078	246	9,736
2025	1月計	16,388	10,403	452	1,405	902	1,883	530	15,575
2025	2月計	15,349	7,915	821	1,053	815	1,504	2,811	14,919
2025	3月計	19,034	10,447	2,682	1,412	1,185	2,371	383	18,480
2024年度累計		182,125	98,554	17,613	20,739	10,904	17,966	8,518	174,294

4-2 2024年度の休館日

毎月第三火曜日、施設点検日、年末年始をセンターの休館日としている。

2024年度における休館日は以下のとおりである。

〈毎月第三火曜日〉4月16日、5月21日、6月18日、7月16日、8月20日、9月17日、10月15日、11月19日、12月17日、1月21日、2月18日、3月18日

〈施設点検日〉6月10～14日、11月25～29日

〈年末年始〉12月27日～12月31日

4-3 公式オリジナルグッズ

1 概要

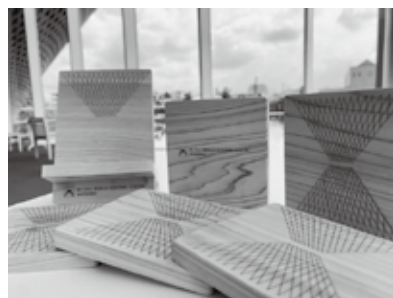
静岡県富士山世界遺産センターでは、観覧の記念やお土産として持ち帰って楽しんでいただけるよう、センターオリジナルグッズを制作し、ミュージアムショップで販売を行っている。

2 オリジナルグッズ一覧（令和7年3月31日現在）

No	商 品 名	内 容	販売開始時期
1	富士山世界遺産センター クリアファイル	当センターの特徴的な建築物と富士山をプリントしたクリアファイル	平成29年12月
2	富士山世界遺産センター ポストカード（4種）	当センターの特徴的な建築物や富士山をプリントしたポストカード	平成29年12月
3	正統展図録	平成30年度秋季特別展図録	平成30年9月*
4	富士山巡礼路須走口登山道 報告書	富士山須走口登山道の調査成果をまとめた報告書	平成30年*
5	富士すがた	当センター建築物の形を模したオリジナル最中	平成30年
6	谷文晁展図録	令和元年度冬季特別展図録	令和元年12月*
7	公式ハンドブック	当センター常設展の図録	令和2年6月
8	富士ひのき コースター	当センター建築物に使用されている富士ひのきを活用したコースター	令和2年8月
9	富士ひのき スマホスタンド	当センター建築物に使用されている富士ひのきを活用したスマホスタンド兼ペン立て	令和2年8月
10	富士ひのき フォトフレーム (販売停止中)	当センター建物に使用されている富士ひのきを活用したフォトフレーム	令和2年9月
11	ハイブリッド狩野派展図録	令和2年度秋季特別展図録	令和2年10月
12	ポップアップメモ	当センターの特徴的な建築物と富士山をプリントしたメモ帳	令和2年12月
13	マグネットクリップ (販売停止中)	当センターオリジナルふじっぴーをプリントしたマグネットクリップ	令和2年12月
14	富士山巡礼路大宮・村山口 登山道報告書	富士山大宮・村山口登山道の調査成果をまとめた報告書	令和3年4月
15	富士山表口の歴史と信仰展図録 (販売停止中)	令和3年度富士宮市共催展図録	令和3年7月
16	家康＋富士山展図録	令和3年度秋季特別展図録	令和3年10月
17	富士三保清見寺図屏風 一筆箋	センター所蔵品の屏風を用いた一筆箋。	令和3年10月

No	商 品 名	内 容	販売開始時期
18	富士三保清見寺図屏風 クリアファイル	センター所蔵品の屏風を用いたクリアファイル	令和3年10月
19	士たちの富士山展図録	令和4年度秋季特別展図録	令和4年10月
20	谷文晁 富士山真景全図（1795年）ポストカード 2種	センター所蔵品の絵画を用いたポストカード	令和4年10月
21	公式ハンドブック（英語版）	当センター常設展図録の英語版	令和5年7月
22	富士山 藝術の源泉展図録	令和5年度特別展図録	令和6年1月
23	転回点 幕末から明治へ展図録	令和6年度特別展図録	令和6年9月
24	収蔵品ポストカード（4種）	センター所蔵の美術品を用いたポストカード。	令和7年2月
25	富士山巡礼路須山・御殿場口 報告書	富士山須山・御殿場口登山道の調査成果をまとめた報告書	令和7年4月

※3、4、6の商品は、令和2年6月に受付での販売からミュージアムショップでの販売へ変更した。



4-4 報道実績

1 概 要

静岡県富士山世界遺産センターは開館から7年目を迎え、施設紹介や企画展開催などの内容は継続して、新聞報道や県内ニュースや情報番組によるテレビ報道、旅行雑誌など多方面にて紹介されてきた。

報道実績一覧表【センター独自集計による】

	新聞	テレビ (県内ニュース)	テレビ (その他)	雑誌	合計
2024年4月	4	1	0	0	5
2024年5月	2	1	0	0	3
2024年6月	2	1	1	2	6
2024年7月	3	2	1	0	6
2024年8月	1	0	2	2	5
2024年9月	3	1	1	2	7
2024年10月	4	1	0	2	7
2024年11月	3	0	0	1	4
2024年12月	12	2	1	1	16
2025年1月	4	1	2	2	9
2025年2月	6	1	1	2	10
2025年3月	4	1	0	1	6
合計	48	12	9	15	84

※テレビ（その他）は、県内ニュースを除く県内情報番組及び全国番組での放映回数

平川さん
親子迎え

達成記念セレモニー

富士山市宮町の県富士山町遺産センターでこのほど、来館者150万人達成記念セレモニーが開かれた。150万人となったのは富士山の平川いずみさん、紗奈さん親子。1階エントランスで1階エントランスと一連くす玉飾りのセレモニーに臨み、花束と記念品を受けた。

平成29年12月23日の

開館から、間もなく7年を迎える中での達成。多くの来館者や職員が誇り、平川と親子に授け、達成と祝った。

「富士山が、子供で供と遠足気分初めてぶつくり、思わぬ歓迎にいたうれい。」

8年前に前に富士山市に移住し、昨年は夫が富士登山した。これを機に家族で富士山

に親しんでいきたい」と笑顔で語った。

来館者数で開館9年の30年2月に10万人、12月に50万人とハイペースで推移。令和2年度から新型コロナ禍の影響で激減したため、令和3年2月に100万人を突破した。

外出制限の緩和以降5年度が16万人、6年度が19万人予想と回復しているという。

今後の運営に向けて、遠山館長は「富士山の歴史や自然、文化などを多くの人の多くの人々に知ってもらうため、当センターの機能に十分に発揮し、展示や広報の充実を図る」と意欲を示した。

花束や記念品を手にする平川さん親子と遠山館長

特別講座について話す島崎さん。

山王寺の奥庭に富士山世界遺産構成員として集った23人が富士山、又富士山について語り合った。黒に登録されている富士山世界遺産構成員は、2012年まで4年かけて賛成協議が開かれ、約2700人が賛成している。このうち約30人が現在、ガイドとして富士山世界遺産構成資産側としてのガイドや中学生に富士山について伝える人などに活躍している。ロータ環境あり賛成協議で中断されていたが、ガイド確保している人から「区画をもう少し、山王寺世界遺産としてつなげるかもし」今、同講座を再開することになった。

講座では19日に「富士山」で議論を交わすほか、26日に「富士山の会」の案内で山王寺青年団本社、白糸（滝）温泉観光ガイドボランティヤの会の案内で山王寺青年団本社、白糸（滝）温泉を訪れる現地視察も行われる。

初回は、同セクター企画総務課の長谷川和信が「富士山世界遺産構成員としてのガイドや中学生に富士山について伝える人などに活躍している。ロータ環境あり賛成協議で中断されていたが、ガイド確保している人から」の観点から学べ、長嶋さんは、ガイド

軍二宮市市民文化館に、デレックMでもい
のフットリーチ事業 採用されている『マ
メ守の都』とのみ
軍二宮市市民文化館に、デレックMでもい
のフットリーチ事業 採用されている『マ
メ守の都』とのみ
軍二宮市市民文化館に、デレックMでもい
のフットリーチ事業 採用されている『マ
メ守の都』とのみ

[illegible]

写真コンテスト入賞作品展

静岡富家士山世襲遺 紙張・秀景 富家士山世 ている。グランプリ
座センターで23日ま 界遺産写真コンテスト 賞作品や入賞作品な
で、企画展「第5回入 賞作品展」が開かれ 80点が一堂に集まる

64

4-5 来館者アンケート結果

1 概 要

来館者の動向、評価等をモニタリングするためアンケートを実施した。

2 実施結果

(1) 第一回

・日本語によるアンケート

○来館日 平成30年1月29日～2月12日
15日間（平日10日間・土日休日5日間）

○総人数 420人（男 191人・女 229人）

・英語によるアンケート

○来館日 平成30年5月8日～5月31日
24日間（平日18日間・土日休日6日間）

○総人数 68人（男 43人・女 25人）

(2) 第二回（日本語・英語によるアンケートを実施）

○来館日 平成30年9月20日～11月13日
54日間（平日36日間・土日休日18日間）

○総人数 436人（男 202人・女 234人）

(3) 第三回（日本語・英語によるアンケートを実施）

○来館日 令和元年10月1日～11月30日
59日間（平日40日間・土日休日19日間）

○総人数 167人（男 85人・女 80人）

(4) 第四回（日本語によるアンケートを実施）

○来館日 令和2年10月1日～11月30日
59日間（平日40日間・土日休日19日間）

○総人数 103人（男 57人・女 46人）

(5) 第五回（日本語によるアンケートを実施）

○来館日 令和3年11月1日～12月26日
51日間（平日33日間・土日休日18日間）

○総人数 118人（男 62人・女 56人）

(6) 第六回（日本語によるアンケートを実施）

○来館日 令和4年10月25日～12月26日
55日間（平日35日間・土日休日20日間）

○総人数 418人（男 191人・女 225人・回答しない 2人）

(7) 第七回（日本語・英語によるアンケートを実施）

○来館日 令和5年10月24日～12月26日

57日間（平日37日間・土日休日20日間）

○総人数 1,203人（男 580人・女 607人・回答しない 16人）

うち日本語 964人（男 463人・女 492人・回答しない 9人）

うち英語 239人（男 117人・女 115人・回答しない 7人）

（８）第八回（日本語・英語によるアンケートを実施）

○来館日 令和6年10月24日～12月26日

57日間（平日38日間・土日休日19日間）

○総人数 554人（男 256人・女 290人・回答しない等 8人）

うち日本語 282人（男 115人・女 162人・回答しない等 5人）

うち英語 272人（男 141人・女 128人・回答しない等 3人）

＊第一回から第五回までは紙で、第六回からは来館者のスマートフォンで二次元コードを読み取っていただき、グーグルフォームによりアンケートを実施した（スマートフォンをお持ちでない方には紙アンケートを提供した）。

3 各回比較結果

第七回以降は日本語アンケート結果（以下「(日)」）・英語アンケート結果（以下「(英)」）をそれぞれ別に示す。

○年齢構成

（日）40代、50代及び60代で全体の52%を占めた。

（英）20代、30代及び40代で全体の77%を占め、（日）と比較して若い世代が来館した。

	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
第一回	15%	5 %	4 %	9 %	19%	24%	24%
第二回	17%	7 %	5 %	10%	5 %	29%	28%
第三回	20%	4 %	5 %	8 %	14%	24%	25%
第四回	31%	6 %	3 %	8 %	14%	21%	17%
第五回	23%	9 %	6 %	11%	16%	14%	19%
第六回	23%	7 %	11%	19%	24%	13%	3 %
第七回（日）	6 %	11%	11%	21%	27%	17%	7 %
第七回（英）	2 %	23%	32%	18%	11%	10%	4 %
第八回（日）	10%	20%	14%	13%	22%	17%	4 %
第八回（英）	6 %	32%	30%	15%	12%	5 %	0 %

○居住地の区分

(日) 令和5年5月に新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことから、第六回からさらに県境越えの移動が盛んになり、県外からの来館割合が増加したと考えられる。

	国外	県外	県西部	県中部	県東部	内地元二市
第一回	－	17%	8 %	28%	47%	(26%)
第二回	8 %	31%	13%	20%	28%	(17%)
第三回	13%	45%	3 %	14%	24%	(14%)
第四回	－	55%	10%	18%	15%	(8 %)
第五回	－	42%	24%	16%	17%	(15%)
第六回	－	75%	6 %	8 %	11%	－
第七回 (日)	－ * 1	82%	3 %	7 %	8 %	－
第八回 (日)	－ * 2	75%	6 %	12%	7 %	－

・県外の内訳

(日) 今回は、第五回目以降（関西で外れ値のあった第六回を除く）と概ね同様の傾向が見られたが、北陸・甲信は減少、中国・四国は増加傾向にある。

	北海道・東北	関東	東海	北陸・甲信	関西	中国・四国	九州
第一回	4 %	48%	26%	4 %	7 %	6 %	4 %
第二回	1 %	53%	16%	11%	13%	7 %	0 %
第三回	1 %	44%	20%	15%	11%	4 %	5 %
第四回	－	51%	30%	4 %	14%	－	2 %
第五回	4 %	43%	18%	16%	14%	0 %	4 %
第六回	1 %	32%	19%	4 %	42%	1 %	1 %
第七回 (日)	5 %	42%	21%	7 %	17%	3 %	6 %
第八回 (日)	4 %	46%	19%	3 %	14%	6 %	8 %

県別上位 神奈川県17%、愛知県16%、東京都15%、大阪府 8 %

* 1,2 第七回以降 (英) 国外の内訳

(英) アジアからの来館者が4分の3を占めた。北米及び欧州は各1割であった。

	アジア	大洋州	北米	中南米	欧州	中東	アフリカ
第七回	72%	7 %	10%	0 %	10%	0 %	1 %
第八回	75%	5 %	9 %	1 %	10%	0 %	0 %

国（地域）別上位 韓国19%、台湾17%、タイ12%、香港11%、米国 6 %

○センターまでの交通手段（複数回答可）

（日）質問項目や回答数を変更したが、自家用車での来館割合が最も高く、列車による来館が次ぐという傾向は変わっていない。

（英）新幹線・在来線の利用者が41%と最も高い。レンタカー利用は、「自家用車」と「その他」の両方に含まれると考えられる。

	新幹線	在来線	路線バス	観光バス	車	徒歩	その他
第一回	4 %	10%	0 %	5 %	78%	6 %	1 %
第二回	6 %	11%	4 %	29%	52%	6 %	4 %
第三回	11%	19%	4 %	26%	42%	6 %	13%
第四回	7 %	15%	3 %	14%	54%	6 %	2 %
第五回	8 %	10%	2 %	11%	63%	6 %	0 %

（回答を1つに変更）

	新幹線・在来線	路線バス	観光バス	自家用車	徒歩	その他
第六回	21%	2 %	13%	58%	4 %	2 %
第七回(日)	18%	1 %	9 %	66%	2 %	4 %
第七回(英)	36%	3 %	11%	42%	7 %	1 %
第八回(日)	26%	3 %	6 %	56%	4 %	5 %
第八回(英)	41%	9 %	3 %	33%	10%	4 %

○来館回数

（日）初めての来館割合が引き続き高い一方、複数来館が13%存在する。

（英）日本語アンケート回答者より「初めて」の割合が高く93%にのぼる。

	初めて	2回目	3回以上
第二回	89%	8 %	3 %
第三回	84%	10%	6 %
第四回	86%	7 %	6 %
第五回	77%	8 %	14%

（回答項目を変更）

	初めて	2～3回	4～5回	6回以上
第六回	87%	9 %	2 %	2 %
第七回(日)	87%	10%	2 %	1 %
第七回(英)	96%	3 %	1 %	0 %
第八回(日)	87%	12%	1 %	0 %
第八回(英)	93%	4 %	2 %	1 %

○センターの認知（複数回答可）

（日）ネット（インターネット）による認知が51%と引き続き多いが、その内訳を見ると、センター公式ホームページの寄与度が26%と最も高い。また、センター以外のウェブサイトも15%ある一方、公式フェイスブック・X（旧ツイッター）の割合は高くない（3%前後）。なお、インスタグラムは7%ある。他に、口コミ（「知人」）の割合が高位である。

（英）ネットによる認知が85%と圧倒的で、センター公式ホームページがそのうち22%を、センター以外のホームページとインスタグラムが25%ずつとなっている。

	新聞	雑誌	ネット	テレビ	ラジオ	知人	その他
第一回	41%	7%	13%	45%	4%	20%	13%
第二回	25%	9%	14%	36%	3%	25%	15%
第三回	15%	16%	17%	30%	3%	25%	14%
第四回	12%	7%	25%	22%	2%	17%	15%
第五回	10%	10%	22%	19%	1%	20%	18%
第六回	3%	10%	45%	11%	1%	24%	25%
第七回(日)	2%	11%	45%	9%	0%	32%	20%
第七回(英)	0%	4%	77%	3%	0%	24%	23%
第八回(日)	2%	10%	51%	10%	0%	29%	20%
第八回(英)	0%	2%	85%	4%	0%	22%	22%

○来館構成

（日）家族での来館が過半を占める状況であり、「友人」「一人」での来館が続いている。

（英）傾向は（日）と似通っているが、「友人」の割合が高い。

	一人	家族	友人グループ	団体	その他
第一回	12%	63%	19%	6%	—
第二回	12%	46%	15%	27%	—
第三回	11%	46%	22%	21%	—
第四回	17%	53%	12%	17%	—
第五回	18%	50%	23%	8%	—
第六回	16%	54%	12%	16%	2%
第七回(日)	11%	58%	21%	8%	2%
第七回(英)	15%	51%	25%	8%	1%
第八回(日)	13%	61%	15%	7%	4%
第八回(英)	13%	44%	38%	3%	2%

○今回は県内に御宿泊の予定はありますか。

(日) 先述した県外からの来館者増に伴ってか、県内に滞在する来館者も増加傾向にある。

(英) 日本語アンケート回答者と比べて「有」の割合が高い。

	有	無
第一回	11%	89%
第二回	24%	76%
第三回	31%	69%
第四回	46%	52%
第五回	35%	63%
第六回	38%	62%
第七回 (日)	62%	38%
第七回 (英)	77%	23%
第八回 (日)	59%	41%
第八回 (英)	67%	33%

○他の立ち寄り場所（複数回答）

(日) センターから徒歩圏内の浅間大社の比率は変わらず高いほか、地元グルメのやきそばと組み合わせての来訪も引き続き3割あった。

(英) 浅間大社、富士宮やきそばの店が多いのは同様だが、「その他」65%のうち約3割ずつが「富士山（五合目など）」「特にない」となっている。

	浅間大社	白糸の滝	朝霧高原	富士宮 やきそばの店	その他
第三回	55%	27%	16%	—	10%
第四回	42%	29%	9%	—	20%
第五回	50%	17%	19%	—	15%
第六回	67%	17%	10%	28%	34%
第七回 (日)	65%	19%	12%	31%	36%
第七回 (英)	46%	17%	3%	25%	40%
第八回 (日)	68%	20%	8%	28%	32%
第八回 (英)	40%	21%	4%	20%	65%

○センターの滞在時間

(日) 8割以上の来館者が30分から1時間半程度の滞在となっている傾向は同じ。

(英) (日) より滞在時間が長めの傾向がうかがえる。

	30分未満	30分～ 1時間未満	1時間～ 1時間半未満	1時間半～ 2時間未満	2時間以上
第六回	8 %	54%	25%	9 %	4 %
第七回 (日)	7 %	50%	32%	8 %	3 %
第七回 (英)	2 %	42%	42%	10%	4 %
第八回 (日)	7 %	47%	31%	9 %	6 %
第八回 (英)	5 %	37%	39%	14%	5 %

○センターを訪れた理由 (複数回答)

(日) 4位は「世界遺産に興味があったから」で21%、5位は「家族、友人に誘われたため」で16%、6位は「企画展示に興味があったから」で7%であった。

(英) 4位は「世界遺産に興味があったから」で23%、5位は「設計者に興味があったから」で18%、6位は「企画展示に興味があったから」で9%であった。

	1 位	2 位	3 位
第六回	富士山に興味があったから 54%	建物や外観に興味があったから 33%	常設展示に興味があったから 28%
第七回 (日)	富士山に興味があったから 59%	建物や外観に興味があったから 35%	常設展示に興味があったから 28%
第七回 (英)	富士山に興味があったから 87%	世界遺産に興味があったから 29%	常設展示に興味があったから 26%
第八回 (日)	富士山に興味があったから 60%	建物や外観に興味があったから 37%	常設展示に興味があったから 32%
第八回 (英)	富士山に興味があったから 84%	建物や外観に興味があったから 25%	常設展示に興味があったから 24%

○今回の訪問で最も印象に残ったもの

(日) 4位は「センターの建物や外観」で7%、5位は「美しき山」で5%と続いた。

(英) 2位に「美しき山」がランクインしているのが特徴的である。4位は「映像シアター」で9%、5位は「荒ぶる山」「聖なる山」が各5%と続いた。

	1 位	2 位	3 位
第六回	登拝する山 35%	展望ホールから見た富士山 20%	映像シアター 16%
第七回 (日)	登拝する山 36%	展望ホールから見た富士山 19%	映像シアター 17%
第七回 (英)	登拝する山 28%	美しき山 17%	展望ホールから見た富士山 16%
第八回 (日)	登拝する山 44%	展望ホールから見た富士山 17%	映像シアター 11%
第八回 (英)	登拝する山 30%	美しき山 21%	展望ホールから見た富士山 17%

4-6 施設管理条例・規則

○静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例

平成29年10月24日

条例第35号

静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例をここに公布する。

静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例

(趣旨)

第1条 この条例は、静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 世界遺産富士山（静岡県世界遺産富士山基本条例（平成27年静岡県条例第31号）第2条第1号に規定する世界遺産富士山をいう。以下同じ。）の有する顕著な普遍的価値（同条第3号に規定する顕著な普遍的価値をいう。）についての県民の理解を深めることにより、当該顕著な普遍的価値を後世に引き継ぐこと及び県民文化の向上に寄与することを目的として、静岡県富士山世界遺産センター（以下「センター」という。）を富士宮市に設置する。

(開館時間)

第3条 センターの開館時間は、午前9時から午後5時まで（7月及び8月にあつては、午前9時から午後6時まで）とする。ただし、知事は、特に必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(休館日)

第4条 センターの休館日は、次のとおりとする。ただし、知事は、特に必要があると認めるときは、臨時に開館し、又は休館することができる。

- (1) 毎月の第3火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その日後においてその日に最も近い日曜日、土曜日又は同法に規定する休日でない日）
- (2) 12月27日から翌年の1月3日までの日

(観覧料)

第5条 センターに展示されている世界遺産富士山に関する資料等を観覧しようとする者は、別表第1に定める額の観覧料を納めなければならない。

(特別観覧)

第6条 知事は、センターに収蔵されている世界遺産富士山に関する資料等について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該資料等の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をしようとする者に対して、当該特別観覧を承認することができる。

2 前項の規定による承認には、センターの管理のために必要な限度において条件を付することができる。

(特別観覧料)

第7条 特別観覧をしようとする者は、別表第2に定める額の特別観覧料を前納しなければならない。

(観覧料等の減免)

第8条 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は特別観覧料（以下「観覧料等」という。）を減免することができる。

(観覧料等の不還付)

第9条 既納の観覧料等は還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(委任)

第10条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、平成29年12月23日から施行する。

附 則（令和7年3月27日条例第19号）

この条例は、令和7年4月1日から施行する。

別表第1（第5条関係）

(1) 常設展示

利用区分	観覧料
個人	300円
団体	1人につき 200円

備考

- 1 個人とは、満15歳以上の者であって、中学校、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者以外のものをいう。
- 2 団体とは、20人以上をいう。
- 3 企画展示と常設展示を併せて観覧する場合の常設展示の観覧料は、減免することができる。

(2) 企画展示

所要経費等を勘案して知事とその都度定める額

別表第2（第7条関係）

利用区分	特別観覧料
模写	1点1日につき 2,000円
模造	1点1日につき 2,000円
撮影	1点1回につき 4,000円
熟覧	1点1日につき 1,000円
原板使用	1点1回につき 3,000円

○静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

平成29年10月24日

規則第41号

静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例施行規則をここに公布する。

静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例（平成29年静岡県条例第35号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(入館時間)

第2条 静岡県富士山世界遺産センター（以下「センター」という。）の入館時間は、午前9時から午後4時30分まで（7月及び8月にあつては午前9時から午後5時30分まで）とする。ただし、知事は、特に必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(観覧手続)

第3条 常設展示又は企画展示（以下「常設展示等」という。）を観覧しようとする者は、条例第5条の観覧料（以下「観覧料」という。）を納付し、観覧券の交付を受けなければならない。ただし、知事が認めた団体については、観覧後に観覧料を納めることができる。

(特別観覧手続)

第4条 条例第6条第1項に規定する特別観覧（以下「特別観覧」という。）をしようとする者は、あらかじめ、様式第1号による特別観覧承認申請書を知事に提出しなければならない。

2 知事は、特別観覧を承認したときは、特別観覧承認書を当該申請をした者に交付するものとする。
(観覧料等の減免)

第5条 条例第8条の規定による観覧料等（同条に規定する観覧料等をいう。以下同じ。）の減免（以下「観覧料等の減免」という。）は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとし、その減免する額は、当該各号に定める額とする。

- (1) 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳若しくは難病の患者に対する医療等に関する法律（平成26年法律第50号）第7条第4項に規定する医療受給者証の交付又は同法第28条第2項の規定による指定難病にかかっている旨の証明を受けている者（以下「障害者」という。）が常設展示等を観覧するとき 観覧料の全額
 - (2) 障害者が常設展示等を観覧するときに現に付き添って介護を行っている者（障害者1人につき1人に限る。）が常設展示等を観覧するとき 観覧料の全額
 - (3) 70歳以上の者が常設展示を観覧するとき 観覧料の全額
 - (4) 70歳以上の者が企画展示を観覧するとき 観覧料の2分の1の額（当該額に100円未満の端数があるときは、これを100円に切り上げた額）
 - (5) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校又は大学の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものを含む。）として幼児、児童、生徒、学生等が企画展示を観覧するとき 観覧料の全額
 - (6) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校又は大学の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものを含む。）として常設展示等を観覧する幼児、児童、生徒、学生等を引率する者が常設展示等を観覧するとき 観覧料の全額
 - (7) その他知事が特別の理由があると認めるとき 知事が別に定める額
- 2 観覧料等の減免を受けようとする者は、あらかじめ、様式第2号による観覧料等減免承認申請書を知事に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、前項第1号から第4号までのいずれかに該当するとき、又は前項第7号に該当する場合であって知事がその必要がないと認めるときは、この限りでない。

3 知事は、観覧料等の減免を承認したときは、観覧料等減免承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

(観覧料等の還付)

第6条 条例第9条ただし書の規定による観覧料等の還付は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとする。

- (1) 観覧又は特別観覧をしようとする者の責めに帰することができない理由により観覧又は特別観覧ができなくなったとき。
 - (2) その他知事が必要と認めるとき。
- 2 観覧料の還付を受けようとする者は、観覧券を知事に提出しなければならない。
- 3 条例第7条の特別観覧料（以下「特別観覧料」という。）の還付を受けようとする者は、様式第3号による特別観覧料還付申請書を知事に提出しなければならない。ただし、第1項第1号に掲げる場合は、この限りでない。

(委任)

第7条 この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、センターの長が別に定める。

附 則

この規則は、平成29年12月23日から施行する。

附 則（令和元年7月1日規則第4号）

- 1 この規則は、不正競争防止法等の一部を改正する法律（平成30年法律第33号）の施行の日（令和元年7月1日）から施行する。
- 2 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の様式により提出されている申請書等は、改正後のそれぞれの規則の相当する様式により提出された申請書等とみなす。
- 3 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

附 則（令和3年3月26日規則第5号）

- 1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の規定及び様式により提出されている申請書等は、改正後のそれぞれの規則の相当する規定及び様式により提出されたものとみなす。
- 3 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

附 則（令和7年3月27日規則第16号）

この規則は、令和7年4月1日から施行する。

静岡県富士山世界遺産センター 年報2024.4－2025.3

2025年9月発行

編集・発行 静岡県富士山世界遺産センター

〒418-0067 静岡県富士宮市宮町5-12

T E L 0544-21-3776

F A X 0544-23-6800

印 刷 文光堂印刷株式会社



静岡県富士山世界遺産センター